

所内報

いしがき

60周年記念誌別冊

Ishigaki

で綴る、この

10年

所  
内  
報

いしがき

60周年記念誌別冊

で綴る、この  
**10**  
年

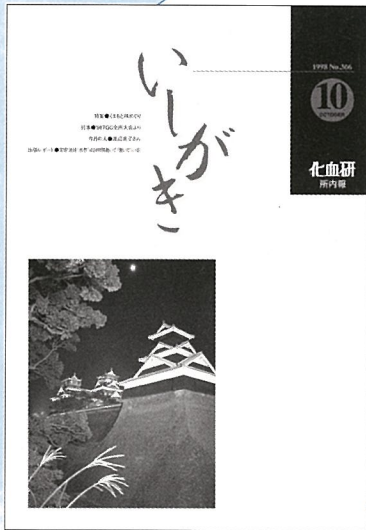
i s h i g a k i



# この10年の いしがきの変遷

## Ishigaki History & Contents

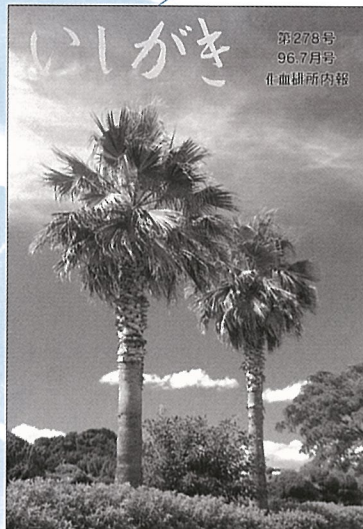
1年ごとに変わってきた「いしがき」表紙デザインとともに、目次をご覧ください。  
それぞれの時代に使われてきた表紙は懐かしさを感じさせます。



**1998**

平成10年

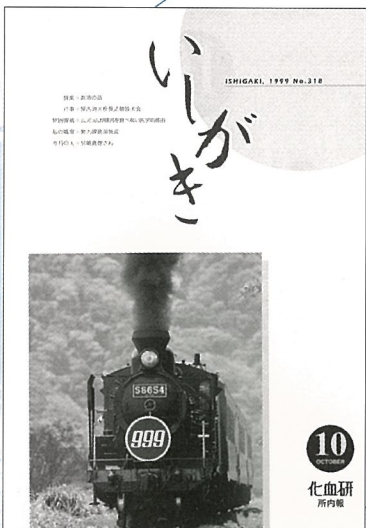
**P20 ▶**



**1996**

平成8年

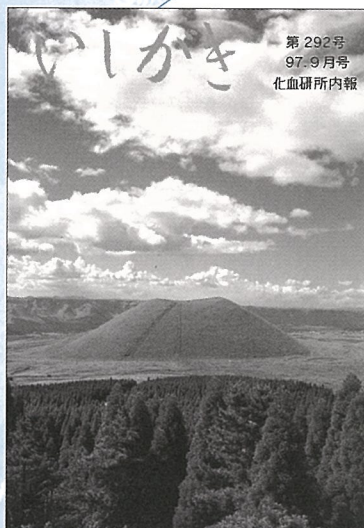
**P4 ▶**



**1999**

平成11年

**P28 ▶**

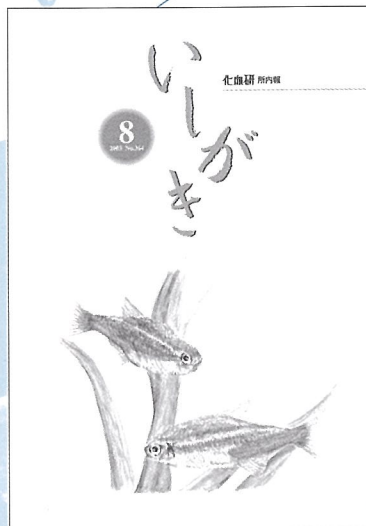


**1997**

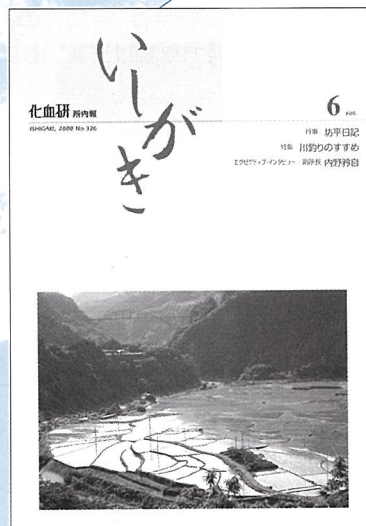
平成9年

**P12 ▶**





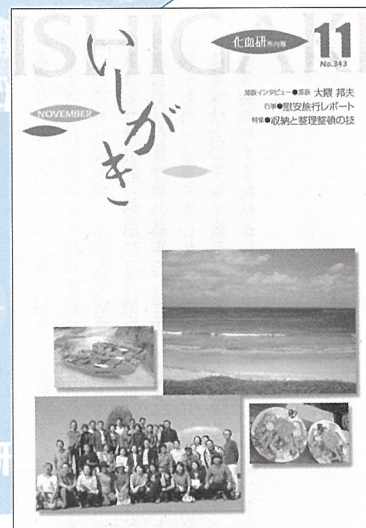
**2003**  
平成15年  
.....  
**P60** ▶



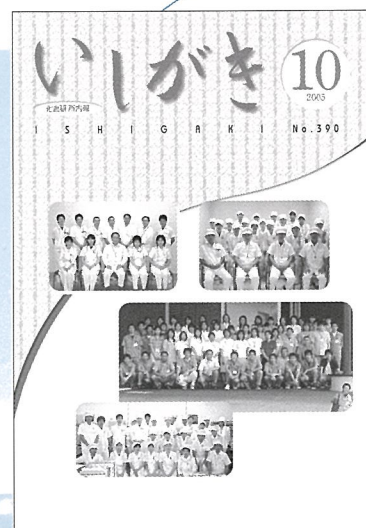
**2000**  
平成12年  
.....  
**P36** ▶



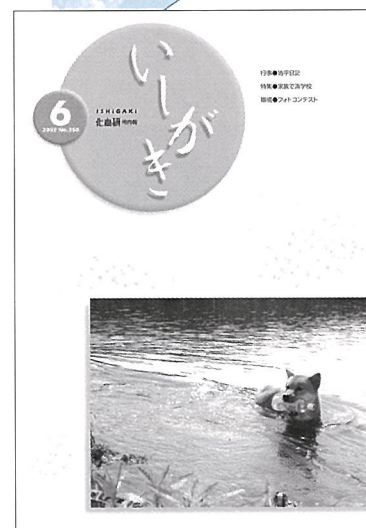
**2004**  
平成16年  
.....  
**P68** ▶



**2001**  
平成13年  
.....  
**P44** ▶



**2005**  
平成17年  
.....  
**P76** ▶



**2002**  
平成14年  
.....  
**P52** ▶



創立60周年に向かって新しい10年の始まりの年です。財団の使命である「世の中の役に立つ安全性・有効性の高い医薬品の開発・供給」を目指し、不断の努力を続けてまいります。



# 創立50周年 記念式典・祝賀式

## 創立五十周年祝賀式挨拶

理事長・所長 野中 實男

本日は財団法人化学及血清療法研究所の創立記念祝賀会を催すことになりましたところ、年末の大変お忙しい時期にも係わりませず多数の方が御列席頂きまして誠に有り難うございました。

特に多くの先輩の方々にお出で頂きましたことに心から感謝を申し上げます。

すでに御承知のように本日は創立五十周年の祝賀会でございます。現職員が先輩方が苦勞して築かれた過去の歴史を理解すると同時に先輩方が在籍當時に思いを馳せ、そして更に今日の化血研を御理解頂きたいと存じます。

本来ならばいろいろな方をお招き申し上げて化血研の五十周年を祝うところではありますが、平成七年が置かれた社会的、経済的な環境を考慮して、祝賀行事の基本を「将来に続くもの」に置きました。その一つは地域社会の多岐に渉るこれまでの御援助に対するお礼として、内館

牧子先生をお招きして御講演を頂きました。熊本日日新聞社様に御援助

を頂きましたこともあり、聴講申し込み者が多く、抽選をしなければならぬ程の前評判でありました。当日は席取りのために二時間前から並ばれる人も居ました。内館先生の素晴らしい講演はすごい好評でありました。

第二は菊池研究所に花水木の並木を作りました。私は花水木を「木に水をやって花を咲かせる」と考えております。化血研を支える素晴らしい技術を一生懸命育て上げ、やがて大きな成果を生ませるという意味です。また、花水木の花は花弁が大きく外に反り返って、赤裸々な自分をさらけ出しています。化血研も堂々と正道を闊歩したいものです。

第三はお世話になりました方々に記念品を差し上げました。そして現職の方々にもささやかな記念品を差し上げました。

そして第四が本日の内輪の祝賀会

であります。以上のようなことでありますので、本日はゆつくりと盃を酌み交わし、五十歩の歩みを回顧して下さい。

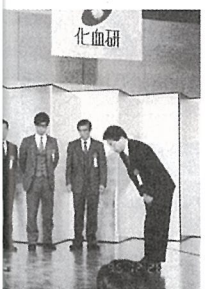
さて、恒例によって平成七年を振り返ってみたいと思います。

今年は幸いにして現職の中から御他界された方は在りませんでした。しかし、十七名の方が父母を亡くされました。お父上を失われた方が八名、お母上を亡くされた方が九名おられます。心からお悔み申し上げると共に御冥福を祈り上げます。

一方、子供さんが生まれた方が二十九名です。その内訳は男子十三名、女子十六名、長男四名、長女六名、次男七名、次女八名、三男二名、三女二名であります。お祝いを申し上げますと共に健やかなる御成長を祈り上げます。

また、御結婚をなさった方が男子八名、女子一四名、計二十二名おられます。そのうち、所内同志の御結婚が五組、十名で、残り、十二名の方が所外の方との御結婚であります。本当にお目出度うございます。よい御家庭をお築下さい。

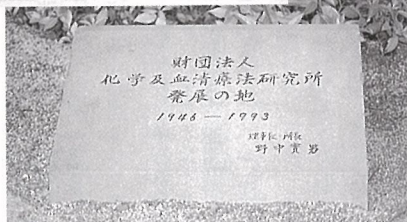
今年の出検数は人体製剤四千四ロット、動物製剤百二十五ロット、分画





# いしがき

第274号  
96.3月号  
化血研所内報



## 創立記念式典



その概略を申し上げます。  
本年は三十年勤続の方が五名、二十年勤続の方が九名、安全運転で十年無事故無違反が十六名、改善提案で優秀個人賞一名、最多個人賞五名、優秀課賞二課、功績表彰三件十五人です。何れも大変なる努力の成果であります。

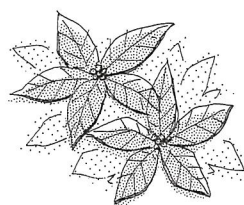
一方、かねて一瞬の懈怠が大事を引き起すということを申して来ましたが今年はそのことを強く肝に銘じさせる年でもありました。

他方、日経バイオテクの「バイオ企業番付95年初場所」では西の大関に格付けされました。

業績発表会、TQC発表会の所内行事も盛会裡に行われ、二十一回、二十二回熊大医学部・化血研ジョイ

忙しいという字は心を亡くするといふことだと言われますが、忘年会の忘の字は「心から何かが亡くなつていく」と言うことであろうと私は思っています。本日はゆつくりと御歓談頂いて、嫌なものが心から立ち去っていき、楽しい忘年会にして下さいますようお願い上げて挨拶いたします。

有り難うございました。







# 平成8年度 入所式式辞

財団法人化学及血清療法研究所の平成八年度入所式にあたり、ご挨拶申し上げます。

本年は桜の開き加減が早く、今日の入所式には満開を過ぎているのではないかと心配していましたけれども、皆様の社会人としての一日目を祝うために、この数日間気温が下がってくれました。厚生会館ふれあい前の桜も本当に満開となりまして、職員七〇〇名、パートタイマー三〇〇名の計約一〇〇〇名と共に、皆様の入所を心から歓迎しております。皆様方を立派に教育し、化血研に入所させて頂きましたご両親をはじめご家族の皆様に厚くお礼申し上げます。次第です。

化血研は昨年（平成七年）で創立以来五〇年を迎える事ができました。先輩及び現職員のたゆまぬ努力があったればこそ、世の荒波を乗り切る事ができたのです。この事が、五〇

周年を記念して作成されました「プロフィール」の中の一ページにまとめられていますので、引用させていただきます。

化血研本所、菊池研究所、阿蘇支所を中心に集う七〇〇余人の絶え間ない研究開発への意志と情熱。その原点は、孵卵器一台、コッホ蒸気釜、譲り受けた実験用作業台というものでした。しかし一九四五年の創立当初から研究即製造、製造即研究という苛酷な条件の中で「研究開発」の理念と実績が形成されていったのです。微生物学、免疫学の研究領域では痘瘡ワクチン、発疹チフスワクチンや各種の抗血清類の供給で戦後の混乱期の防疫に貢献し、続いてポリオワクチン等の今日の主要なワクチンの開発を続けてきました。動物用ワクチン分野においても鶏・豚・牛用の各種ワクチンを手がけ畜産業界の発展の一翼を担い、犬・猫の分野



理事長・所長  
酒匂 光郎

にも及んでいます。その間に確立した孵化鶏卵培養法・組織培養法などの製造技術が進歩を支え、新たに培った遺伝子組換えや細胞融合等の生命工学技術から遺伝子組換えB型肝炎ワクチンを生み出しました。

血液学の研究領域では血液銀行に続いて血漿分画製剤の研究が続けられました。世界に先駆けたスルホ化人免疫グロブリン、高度精製技術を用いた加熱凝固因子製剤、外科の世界に変革をもたらすフィブリン糊製剤、これらの製剤の開発は習得した先端技術によるとともに化血研の原点から続いている研究開発の理念が実践された成果です。

これが紹介文です。我々は昨年までを第一章ととらえ、本年は二十一世紀へ向けての基礎固めの初年度、すなわち第二章のスタートの年と位置づけています。しかし、近年の我々を取りまく環境は非常に厳しいもの



黒龍江省位置



# 化血研 海外へ展開

昨年三月二二日、株式会社化血研と中国・黒龍江省生物制品一廠との間で「日中合資・黒龍江化血研生物技術有限公司」設立の調印が、厚生会館特別会議室で、酒匂所長・進副所長・山田常務理事はじめ関係者立ち会いのもと、(株)化血研の加久社長と黒龍江省生物制品一廠の劉樹華廠長の間で行われた。

## 【合併事業の内容】

本合併事業の内容は、合併会社を設立して、増加し続ける中国の畜産市場で、動物用生物学的製剤、特に家禽ワクチンの開発・製造及び販売に当たるといふもので、合併相手の黒龍江省生物制品一廠の敷地内に、GMP適合の工場を新設し、当面は従業員数約九〇名での生産を計画し

ている。

投資額は化血研から三六〇万ドル、先方から土地使用権及び機械設備等の現物出資三六〇万ドル計七二〇万ドルで、合併期間は二〇年間である。生産品目及び各生産量は別表1の通りである。

## 【合併相手】

合併相手の黒龍江省生物制品一廠は黒龍江省哈爾濱市にある国営企業で、従業員の規模は約八百名。そのうち動物用ワクチンの鶏用ワクチンについては一九九五年に販売量二八億ドースに達し、中国第二位である。ただ近年、外国からの輸入ワクチンと外資系の合併会社製のワクチンが市場を侵食しつつあり、このままの品質の製品では更にシェアを落としていくという危機感の下で、化血

研の技術協力と資金を求めてきた。

## 【合併事業の経緯】

今後、中国においても、一九九五年以降新設される工場はGMP適合したものに限られ、又二〇〇五年からはGMP適合の工場で製造された製品しか販売できないようになってくる。

そのため、黒龍江省生物制品一廠においては、前述の品質面と資金面で対応が困難なため合併相手を模索中に、元動物医薬品検査所所長の二宮幾久治先生の紹介で化血研に合併の話が持ち込まれた。

その後一九九四年六月に山田常務理事が、同年十一月には酒匂副所長(当時)・山田常務理事・藤川第二製造部長が中国を訪問した。

一九九五年八月には、先方から劉

樹華廠長他二名の方が来所された。その間、「財団の海外への資本参加は現時点では望ましくない」との意向が厚生省より示され、(株)化血研が対応することとなった。

その後、一九九五年十月に(株)化血研から土井生産管理部長(当時)・水野経理課長(当時)・(株)化血研から加久社長・岡山管理部長(当時)の四名が中国を訪問し、企業化の検討を行い、合併会社を設立することで合意に達し、本年一月には(株)化血研から水野経理課長、(株)化血研から加久社長・宮崎の三名が訪問し、契約書・定款などの詳細な詰めを行った。

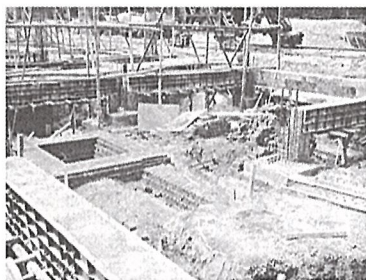
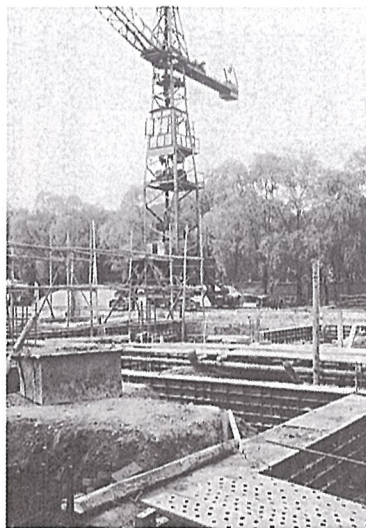




## 化血研

## 海外へ展開(続報)

前回、六月号で合併会社「黒龍江化血研生物技術有限会社」設立の報告をしました。その後の工事などの進捗状況について報告します。



三月二十六日に、現地政府より営業許可証を得た後、四月に化血研よりの出資分三百六十万米ドルの内半額分を、五月に残り全額の振込を行い、化血研よりの出資は完了しました。丁度円安傾向になっていたとかなので、日本円で約三億八千八百万円の出資となりました。

その間、四月十三日から二十四日の十二日間に亘って、第二製造部の古川課長、資材課の相沢課長、化血研の土井調査役が、新工場に設置する設備機器及び工場のレイアウトの検討のため、北はハルビンから南は南京まで延々五千キロにわたり

中国国内各地を訪問された。

五月十二日・十三日の両日には、日本における役員会にあたる董事会の第一回会議がハルビン市において開催され、化血研より山田理事・内布病理部長、化血研より加久社長・緒方部長の四名の董事及び通訳の孟昭さんの五名が訪中された。

第一回目の董事会を経て、劉樹華総経理(黒龍江省生物制品一廠廠長兼務)以下の幹部社員の人事も大略決定し、合併会社は操業に向け、本格的に稼働を始めました。

- 1 -

## 私の包装作業回想記



所友  
内田満洲男氏

昨年二月「歴史的記念品委員会」なるものが結成され、そのメンバーの一人に選任された。

この会の目的は当所創立五〇周年

事業の一環として、当所創立時より

今日まで活用された機械、器具等を

収集し、それらの用途、年代等を記録することになった。

にはほとんど触れられていない。

そこでこの機会に「分注」「包装」

についてなにか記録を残しておこう

ということとなった。

そのなかの「包装作業」に関して

はまたま十年前、小生が短期間と

はいえ経験したという理由でこの大

役を引き受けさせられた次第である。

ただ創立当初からこれらの工程の

ほとんどは手作業であり、道具と言

えば通称「糊板」(木製三十×四五

×二四)とよばれたものぐらいであっ

たらう。

この使い方は先ず「糊板」上にメ

リケン粉で作った自家製糊を刷毛で

塗布し、その上に白の西紙を貼付す

ベル、検定証の一枚、一枚を瓶や箱に手早く貼付する。

書けば面倒の様であるが実際は非

常に早い。

実はこの「糊板」による貼付法は

当所創立期にどういう経緯で導入さ

れたのであろうか?

この機会を利用して当時関係の深



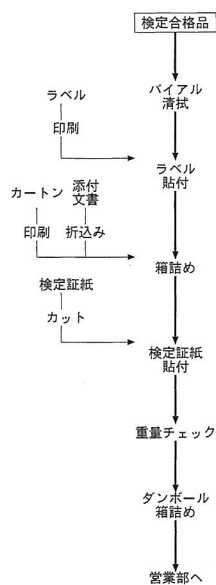
No.278 (7月号) より



旧京町研究所正面右のプレハブ棟は当初採血瓶の包装に用いられ、その後製剤の包装に転用された。

「作業」であるにも関わらず具体的  
なるほど四十年史、五十年史（原  
稿段階）をみても当所創立以来の  
注、包装作業が浮上した。  
「作業」であるにも関わらず具体的  
なるほど四十年史、五十年史（原  
稿段階）をみても当所創立以来の  
注、包装作業が浮上した。

また、なかには私のメモから引用  
したものもあるので、事実とは少し  
異なる部分があるかも知れない。そ  
の点はお許し願いたい。  
さて、前置きが長くなったが包装  
作業の基本的な流れを次図に示す。  
この流れは現在も殆ど変わっていない  
と思う。



板」上に整列させる。整列させたラ  
〇大先輩曰く「そりゃー障子張りの  
要領からきたったい」だそうである、

が真偽の程は定かではないようだ。  
しかし当所の包装作業の原点はこの  
「糊板」にあることは間違いない。  
その後ロット番号、合格、最終有  
効年月日を印刷するため印刷機及び  
ラベラーが購入、設置された様であ  
るが、主体作業は包装本数の増加に  
比例し、この「糊板」の枚数を増や  
す、いわゆる人海戦術で対応された  
ようだ。

れ、それらによる好、不調の波が激  
しく頭痛の種であった。  
とくに京町に設置された包装機の  
全盛期は導入後四、五年と非常に短  
く、その後急速に稼働率が低下して  
いった。  
理由は主力のND不活化ワクチン  
(100ml)の大容量(500ml)  
化と生ワクチンへの移行であり、こ  
れに伴い作業も元の人海戦術で対  
せざるを得なくなった。

印刷室1棟からなり、人体用、動物  
用製剤担当ごとに各責任者を専任し  
作業員をそれぞれ約半数づつ配して  
いたように思う。  
人体製剤担当は、フル、ワノ等  
の包装、痘瘡ワクチン熔封作業等が  
発生すれば、その都度清水研究所に  
出向作業するといった具合である。  
丁度この頃全所に生産性向上の  
必要性が叫ばれ、IE技術習得のた  
めIE訓練が実施されることとなっ  
た。

ところが昭和三〇年代後半にな  
ると、この「糊板」中心では到底間に  
合いそうにない事態が持ち上がった。  
いわゆる動物用ではND不活化ワク  
チンの大増産、人体用では清水研究  
所の新設と主力製剤であるフル、ワ  
ノ等の100ml製剤の出現であった。  
ここに創立以来二〇年にして自動  
包装機が京町、清水に導入設置され  
たのである。

こうした折、当所において資格制  
度導入に伴う組織改編が行われ、そ  
れまでの企画課包装班は器具、分注  
部門に統合され、新たに生産管理部  
製品課として発足することとなった。  
小生が製品課に異動し包装の責任  
者になったのは、丁度この時期であ  
る。

訓練対象職場は製造部門の全職場  
に及んだが、包装作業も観測対象と  
して常時選定された職場のひとつで  
はなかったろうか？  
従って訓練が実施される度にここ  
に各観測者の鋭い視線が機械の稼働状  
況は勿論、作業員の一手一投足ま  
で注がれたのであった。

機種はいずれも日本自動機機製で  
京町では100ml専用、清水では一  
〇、二〇ml専用であった。  
これらの包装機は当時としては、  
国産の最新鋭のもので生産性向上に  
大いに貢献したことは言うまでもな  
い。

異動後まず驚いたのはその人の多  
さであった。その数四〇数人、男性  
は三名のみであとは女性ばかり、し  
かもその陣容は創立以来の大ベテラ  
ンから新人までの年齢構成で誠に多  
彩であり朝礼時など圧倒されたもの  
である。

こうした訓練が終了する度にここ  
に研究発表となる訳であるが、その結  
論はいずれの発表でも包装部門の省  
人化、そのための機械化をより促進  
すべしというものであったように思  
う。

しかしこの包装機械はカートン、  
ラベルの規格、紙質に大きく影響さ  
す。

当時の包装作業の本拠地は旧京町  
研究所の一角（現在三の丸史料公園  
の中央入口付近）のプレハブ3棟、

もあり機械化に着手することとなっ  
た。



## 化血研水源涵養の森を造成

当所は、熊本市の水資源の問題がクローズアップされる中で、水の大口需要者として社会貢献できる事業を検討した結果、未来に向けた「豊かな郷土づくりと水資源の確保」を目的に、国有林の分収造林制度を活用して「法人の森林」を設定し、水源林を造成することになりました。七月二十五日、熊本営林局・青柳局長と当所の酒匂理事長との間で契約の調印が行われました。



- 1、事業の概要  
熊本市の地下水減少が深刻な問題となっています。来春、熊本市は、大口取水者として当所を含む大手の企業名を公表する予定です。そのような趨勢の中、当所としては、まず内部の節水に努力してきました（動力課を中心に展開した「節水キャンペーン」では約一五パーセントの節水を達成）。と、同時に、外への働きかけをも模索して来しました。  
そして、自治体レベル、市民レベルで高まりを見せつつあった、国有林を活用した森林造りに注目しました。担当行政庁である熊本営林局にご相談したところ、分収造林制度の一つである「法人の森林（もり）」（国有林の土地に企業が木を植えて育て、一定の期間育成した後には伐採し収益を分収する制度。その収益は、森林づくりの助成など社会還元に利用することが条件。平成四年度に開始。）を薦められ、検討の末、この事業に取り組む事となりました。  
造林設定の場所は次頁の地図の通りですが、ここは、当所が取水している河川の源というべき所です。水資源の確保、資源環境の保護という趣旨には適した場所と言えるでしょう。
- 2、設定申請の場所  
熊本県上益城郡矢部町大字目丸字奥官山三一〇三番地の一目丸内大臣国有林六〇は一林小班  
（内大臣橋から車で三〇分、徒歩二時間程度、林道を登っていった場所になります。）
- 3、認定申請面積  
二五、六三八平方メートル
- 4、植栽樹種及び本数  
すべて広葉樹（ケヤキ、ヤマザクラ、カエデ、コブシ、カツラなど約七七〇〇本）
- 5、契約期間  
平成八年度～平成八七年度  
植栽期 平成九年三月  
（植樹祭を予定）
- 7、備考  
森林入り口には、企業名・事業名を表示した看板掲げます。  
東屋、散策道なども設置可能です。日常の管理業務は、地元の育林業者である矢部愛林有限会社へ委託。

熊本営林局の広報紙「広報九州」に調印式に関する記事が掲載されました。



[illegible]

平成8年10月26日(土) 菊池研究所グラウンドで行われました。



赤 團

第 3 製造部  
品質向上  
薬事部  
病理部

(1) 平成8年5月5日

報 九 州

№. 1489  
熊本営林局  
熊本市京町本丁2-7  
電話 (096) 328 3600  
発行日  
毎月5日・20日

化血研が「法人の森林」  
分収造林型で水源林を造成



「木材の安定供給法」林野庁では、先にも成立した林野の安定供給法の施行に関する有識者懇談会のついでに、この有識者懇談会を打ち合わせとしておこなわれ、七月一日、九州・沖縄地方の福岡市で開かれた大会議室、ロッキートの講堂で開かれた。この会議は全国を九つのブロックに分け、今秋に林野庁の同様に、今秋に林野庁の基本的な運用に関与する基本的な考え方、政策決定、事業計画の作成等について、根



営林局大会議室に40人が座まつて



調印を終えて酒匂化血研理事長（右）と青柳



化血研が中国との合併会社を設立し、新工場が完成しました。  
また、本所ではTM棟が完成するなど更なる飛躍の年となりました。

No.287(4号)より

## 今月の出来事



# 『化血研の森』植樹祭

早春の深山に「コブシ」五百本植え付け

三月十五日午前十一時、「化血研の森」植樹祭が、矢部町の目丸内大臣国有林で執り行われた。前後からの雨がわずかに残る天気で、式の開催が懸念されたが、式典の進行につれ、雲間から陽が差し始める。

式は、酒匂所長による主催者挨拶(下欄)に続き、来賓を代表して矢部営林署・久保田署長にご挨拶を頂く。「森林資源の保護」「水源涵養」という当所の造林への姿勢に対し、ありがたい評価を頂いた。

式典の後、記念植樹に。当所の理事、動力課・総務課(環境保全に関連のあるスタッフ部門)の職員が、熊本営林局、矢部営林署の方々と共同で、コブシの苗木五百本を植え付けた。土を掘り起こした時の匂いは、どこか懐かしく感じられる。童心に帰ったような、参加者の笑い声がしばしば山間に響いていた。

三十分程度の植樹作業の後、ヤマメや豚汁を味わった。

この森林で育てる樹種は、記念植樹したコブシの他に、ヤマザクラ、カエデなど、季節毎の観賞を楽しむものを始め、ケヤキ、ブナ、カツラ、ミズメ、ミズナラ、キハダなど広葉樹ばかり九種類。営林局の森林インストラクターが、苗木の現物を手にしつつ各樹種の説明をされた。参加者は将来、樹木が育った時の情景に思いを馳せた。

## 植樹祭挨拶

酒匂光郎

平成八年七月二十五日、熊本営林局に於いて水源かん養の目的で分収造林型「化血研の森」調印以来待ちこがれていました植樹を本日举行なうことが出来る様になり心より嬉しく思います。

心配しておりました天候も天の助けをいただき曇りとなり、絶好の植樹日和となりました。調印以来今まで、熊本営林局、矢部営林署、矢部森林組合、矢部愛林有限会社の皆様方には、いろいろとお世話になりました。

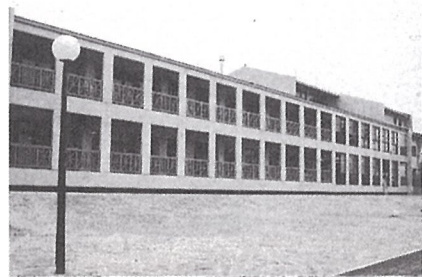
その上、本日は、営林局、営林署、愛林会社の方々には植樹の御指導等よろしくお願い申し上げます。又、聞くところによりますます昼食につきましては、JA矢部の方々に御用意

いただいておりますとか、皆様本当にありがとうございます。

熊本日日新聞社矢部支局、及び「くまもと経済」様には、取材のため、わざわざ遠くまで御来場いただきまして、心より御礼申し上げます。矢部愛林有限会社の皆様には、今後長年に亘り植林や管理などでお世話になります。どうぞよろしく願い申し上げます。挨拶いたしました。ありがとうございます。







## 杏和会

# 城南病院療養病棟新築落成

去る2月7日、約1年の工事期間を経て、療養病棟が完成し落成式を行いましたのでお知らせします。

当日は、城南町宮地神社(七所宮)から宮司さんを迎え午前10時半、新築病棟2階機能訓練室で神事を厳かに執り行いました。

その後約1時間の病棟観覧の後、城南町町長を始め近隣の病院院長先生等57名の来賓を賜り落成記念式典が盛大に挙行されました。まず、野中理事長の挨拶の後、酒匂所長他来賓の方々に祝辞を頂きました。酒匂所長は新病棟をここの他気に入られ挨拶の中で老後は入院したいとの感想を述べられました。次に、施工設計を担当された水越代表及び建築を

担当された(株)多々良の鏑社長へ感謝状及び記念品の贈呈が行われました。

建物の概要を紹介しますと、鉄筋コンクリート造り2階建て(一部3階)延べ面積3,959㎡で、各階とも外側に面して病室60床(一人部屋4室、二人部屋4室、四人部屋12室)の計120床、南に面して日当たりの良いデイルームと食堂、中央部分に浴室、特別浴室、ナースステーション等の設備を設置しています。特に、病室は一人当たり8㎡超と老人保健施設並の広さとなっています。これは、入院患者さんに快適な環境の中充実した療養生活を送っていただくという、岡嶋院長の考えによるものです。

さて、本誌を借りて杏和会城南病院を紹介します。

### ①理念

城南病院においては、全職員が患者さんとの信頼関係に基づいて、常に温かい心と細やかな気づきをもって接し、快適な環境のもと、療養からリハビリテーションに至るまで、良質の医療、看護及び介護を提供することをモットーとします。

### ②沿革

昭和28年4月、結核療養所「保生園」として発足  
昭和34年4月、化血研が引継ぎ医療法人松寿会緑ヶ丘病院として発足  
昭和40年7月、精神科・神経科を増

### 設

昭和44年10月、緑ヶ丘病院を廃止、医療法人杏和会城南病院として発足

昭和52年1月、機能訓練室新築

昭和58年3月、精神科老人病棟改築

昭和58年7月、結核病棟廃止

昭和61年3月、一般病棟120床、精神病棟120床に増床

昭和62年12月、精神科病棟改築

平成8年5月、精神科病棟を増改築、老人性痴呆疾患療養病棟(2床減床)とする

平成9年1月(今回)、一般病棟を改築して療養病棟とする

### ③診療科目

内科・神経内科・呼吸器科・小児科・整形外科・リハビリテーション科・皮膚科・精神科

終わりに、療養病棟落成を機に、城南病院職員一同はその理念のもと、より一層の医療サービスを提供する所存ですので、化血研職員及びご家族の方々のご来院を心よりお待ちしております。

(文責 別府 進)



# 平成9年度 入所式式辞

## 新入職員を迎えて



理事長・所長  
酒 匂 光 郎

平成九年度、新入職員五十六名の皆さんを迎えるにあたり、全職員を代表して心より歓迎いたします。

まず始めに、皆さんを今日まで勉強にいらして、化血研の入所に賛成いただいたご両親、ご家族に対し、心から御礼申し上げます。化血研は、一九四五年の創立以来、幾多の苦難を乗り越えて、五十二年目を迎えております。内外ともに、政治、経済すべてにおいて厳しさを増す今日、我々を取り巻く分野でも、技術力の競争は一日を争う激しいものがあります。

つい先日までは、最新の技術と知られていたものが、すぐ一般的な技術となってしまう。この様な中で我々は研究、製造、営業と自助努力によって、家族のため、研究所のため、社会のために生きていかなければなりません。

医薬品業界に於けるいろいろな基準は次々と厳しくなり、その品質の向上を目指して、世界中の人々が頑張っ

ております。皆さんも基礎をしっかりとめたと、さまざまな分野の人達との出会いを大切に、常に問題意識を持ちながら、何をなすべきかを考え、目的の達成のよろこびを味わうべく、最善を尽くしていただきたいと思っております。

三月十五日、「化血研の森林」の植樹を行いました。これは、熊本営林局と八十年契約をした、分収造林型の森林であり、約二・五ヘクタールに七六〇〇本植樹してあります。この目的は二つあります。一つは、地下水保全のための水源涵養としての森であり、あと一つは、八十年先のこの契約を実行出来る様、存続させなければならないという意志表示であります。

共に、目的達成のため頑張ります。基礎は簡単ではございますが、皆さんに大きな期待を持って挨拶いたします。



- 1 -

## information

# 特許の世界へようこそ

## 研究管理部特許課

特許に代表される「工業所有権」の重要性は近年特に高まっています。当

思います。内容は、「特許」を中心とした「工業所有権」全般にわたり、①

ル社の特許を侵害しているとして、特許係争の後、160億円の損害賠償金を支払いと和解しました。和解とはいえず実質完全敗北です。しかも、米国への製品の輸出が禁止され企業活動で多大な打撃を被りました。また、ゲーム機で有名なセガ・エンタープライゼス社(1997年、総合玩具メーカー・バンダイとの合併が発表されました)が米国の個人発明家コイル氏に特許侵害で訴えられました。セガはこれに全面降伏し、60億円もの損害賠償金を支払ったということです。巷では真実やかにこのような数字が飛び交っていますが、実は、和解条件の真実は当事者のみ知

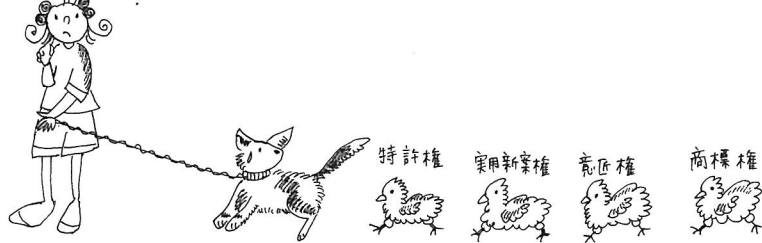
本格的進出を断念し、本来の繊維に回帰せざるを得なくなりました。組換えt-PAについては、わが国の住友製薬、持田製薬もジェネンテック社の特許を克服できず、1996年相次いで事業の撤退を表明したのも記憶に新しいところです。なお、余談ですが、組換えt-PAをめぐるわが国の特許係争に関しては、三菱、住友、三井の旧三大財閥全てが名を連ねていることから、採算を度外視した財閥の単なる意地の張り合いと、押捺する輩もいるようです。いまのところ、三菱・岩崎家の一人勝ちの様相を呈しています。

このような例からも結論されるよう



No.287 (4月号)より

## 工業所有権？



單元が新設され皆さんに活用されてきました。ところが、その後、わが国の工業所有権の分野では、根底となる法の改正（特許法、実用新案法、商標法）が相次ぎ「技術講座」の内容が実際にそぐわない部分が生じてきてしまいました。法改正に対して、これまで「特許セミナー」などの機会を利用して解説を試みてきましたが、特許課内外で総合的にまとめた内容に整理する必要があります。この機運が高まりました。

そこで、これから数回にわたり「いしがき」の紙面をお借りして「工業所有権」についてのお話を展開しようとした。

ここで、これから数回にわたり「いしがき」の紙面をお借りして「工業所有権」についてのお話を展開しようとした。

## 序章 工業所有権ってなに？

一、いま、なぜ「工業所有権」が叫ばれるのでしょうか？

かつて、ミノルタ・カメラが、オートフォーカス技術に関し米国ハネウェ

マスコミをにぎわせるほどの大火傷をしないまでも、小競り合い程度の特許係争を経験していることは事実です。今や、段々のパイオニアの製品は別にして、上市する製品のうち工業所有権の問題を付随しないものは皆無であると言っても過言ではないでしょう。

「特許など気にすることもなく商売ができた昔は良かった」と、「古き良き時代」を懐かしむことも世間話としてはよいかもしれませんが、事実として特許問題が大きのしかかっていることを認識する必要があるかと思ひます。

二、さて、「工業所有権」とはいったいどのようなものをいうのでしょうか？

一般的には、特許権、実用新案権、意匠権および商標権を総称して「工業所有権」といいます。これらの権利に、ノウハウや著作権などを含めて「知的所有権」とか「無体財産権」などと呼ばれることもあります。

## ※特許権

「工業所有権」の代名詞ともいえる代表的な権利のひとつです。産業上の利用性のある高度な技術的アイデア（発明）を保護対象とします。

一般的に使われることはとしての「発明」は、「新たに物事を考え出すこと」を意味しますから、例えば、新しい走り高跳びの跳躍法や部下のやる気を引き出す新たな管理方法など種々雑

生じます。勝つても負けても莫大な支出です。

さて、わが国の医薬品の世界に目を転じて、東洋紡が医薬事業進出の第1号製品として厚生省の認可も受けた血栓治療薬、相換えT-PAが、米国ジェネンテック社の特許を侵害していること大阪地裁で判断されました。控訴審もこれを認め、これを受けて1993年事件は確定しました。東洋紡は多額の賠償金を支払いました。同時に、この製剤の製造のために新築した最新設備の大津工場は、本格的に稼働することなく差し押さえられてしまいました。その結果、東洋紡は医薬事業への

多なものを指していることができます。

ところが、「工業所有権」でいう「発明」は通常の意味よりもはるかにせまく、「自然法を利用した技術思想の創作」（特許法第2条）に限られます。小学校の教科書に例えれば、「理科」

「技術・家庭」の分野がその対象と考えられていしょう。具体的には、産業上（工業に限られるわけではありませんが、農業・水産業等もこれに含まれます）に有益な、新たな「物」の創作、

「物」を製造するための「方法」、および産業上に有益な、例えばある物質の測定に用いられる「方法」などが特許権として保護されます。当所では、

「物」を「医薬品」に置き換えれば実際のかと思ひます。

特許の場合、「新規性」、「進歩性」、「産業上の利用性」などの要件を満たすことを条件として権利化されますが、

権利の所有者（特許権者）は、この権利に基づき、特許で保護される技術を一定期間独占的に実施することができ

ます。また、侵害者に対しては、侵害行為の差止め請求権、損害賠償請求権、信用回復措置請求権などを行使することができます。

今回の私たちのシリーズでは、当所にとって最も重要で且つ馴染みの深い特許（特許権）を柱にして説明を進めていこうと思ひますが、特許以外の権利の保護については大略次のとおりです。

※実用新案権

技術的なアイデアを保護対象とする点において特許と共通していますが、特許の水準に達しない比較的低レベルのアイデア（考案）を保護します。但し、物品の構造等に関するもののみであり、物質自体や方法に関するアイデア（発明）は実用新案権の保護の対象外です。実用新案権は、歴史的には

いわゆる大発明をすることができない中小企業や個人発明家を保護するために、主として日用品や雑貨などに関する比較的簡単なアイデアに対して与えられるべきものです。しかし、従来のわが国の実用新案制度は、特許制度との違いが必ずしも明確ではない等の理由により見直しが行われ、無審査、権利期間の短縮化等を骨子とする平成6年の法改正（平成6年1月1日施行）がなされました。

※意匠権

特許権や実用新案権が技術的なアイデア（考案）を保護するのにに対し、物品（一般に大量生産を目的とするもの）のデザイン、すなわちその模様や形状そのものを審美性の点から保護します。意匠権を得るには、機能や値段が同じ程度であった場合でも優れたデザイン（意匠）が施された商品の方が、需要者の審美感覚や興味に訴えることにより、多く消費されるであろうという考え方に基づいています。当所のような業務では、馴染みは薄いものですが生活用品や玩具等の業界では意匠の重要性は大きいものです。

商品（一般に大量生産を目的とするもの）のデザイン、すなわちその模様や形状そのものを審美性の点から保護します。意匠権を得るには、機能や値段が同じ程度であった場合でも優れたデザイン（意匠）が施された商品の方が、需要者の審美感覚や興味に訴えることにより、多く消費されるであろうという考え方に基づいています。当所のような業務では、馴染みは薄いものですが生活用品や玩具等の業界では意匠の重要性は大きいものです。

商品（一般に大量生産を目的とするもの）のデザイン、すなわちその模様や形状そのものを審美性の点から保護します。意匠権を得るには、機能や値段が同じ程度であった場合でも優れたデザイン（意匠）が施された商品の方が、需要者の審美感覚や興味に訴えることにより、多く消費されるであろうという考え方に基づいています。当所のような業務では、馴染みは薄いものですが生活用品や玩具等の業界では意匠の重要性は大きいものです。

商品（一般に大量生産を目的とするもの）のデザイン、すなわちその模様や形状そのものを審美性の点から保護します。意匠権を得るには、機能や値段が同じ程度であった場合でも優れたデザイン（意匠）が施された商品の方が、需要者の審美感覚や興味に訴えることにより、多く消費されるであろうという考え方に基づいています。当所のような業務では、馴染みは薄いものですが生活用品や玩具等の業界では意匠の重要性は大きいものです。



## 化血研 海外へ展開

# 中国合併会社新工場完成

（株）化血研と中国、黒龍江省生物制品一廠との間で'96年3月22日、合併設立しました「日中合資・黒龍江化血研生物技術有限公司」についての概況は、いしがき、'96年6月号、「化血研 海外へ展開」で合併事業の経緯と概要、また会社があります哈爾濱市をご紹介します。'96年9月号では、その統報として、新工場の建設模様をお知らせしました。

れ、期待と興奮の様子でした。

唯、独り準備に余念が無かったのは、明日、中国語で挨拶される、加外社長ではなかったでしょうか！

式典は新工場前の広場で催されますが前日の夜になって雨が降り出したので、皆で大変心配をいたしました。いよいよ当日となりましたが、朝まだ雨が降っています。式典は9時58分の開始です。貴賓（中国政府、省関係

黒龍江省人民政府高官の人たち

竣工式貴賓



— 2 —

No.293(10月号)より

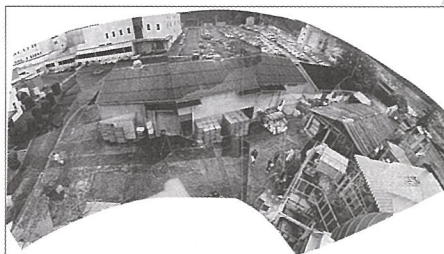
## TM棟完成



去る八月、七日、待望のTM棟が竣工しました。竣工式では、神事で出席者一同玉串を奉じ、竣工を感ずると共に、直会では、酒田市長が竣工式である建屋竣工に対し感謝の意を述べられ、七月に亘る本工事が無事完了した事を御報告致します。

当初TM棟は、検査棟、第1製造部記録室として計画が定められていたが、平成八年七月、TM棟「本所長期建設計画」に繰り込まれ、九月、営業倉庫、総合事務所等跡地（図①）に恒久施設として設計する事になりました。工事概算は以下の通りです。  
工期 平成九年二月一日～八月一日  
工費 六億九千八百万円  
施工 鹿島建設  
工事内容 医薬品製造関連通路（更衣室、換気室、記録室）  
検査室 第三階 第三階  
延面積 二二〇・五・五三㎡  
尚、TM棟は一階から六階への渡り廊下を設け、当面は公衆、検査室機能を収納する施設として、既設完成時（平成十一年一月）には、更衣室・記録室機能を収納する施設として計画しております。（図②）

## 「TM棟」完成!!



（財）化学及び血液療法研究所 TM棟建設計画 建設面積 二二〇・五・五三㎡

（図-3）

— 8 —



# 化血研・海外へ展開

新工場正面



番目に日本側を代表し、(株)化血研、加久社長の挨拶が、流暢な中国語でなされました。250名余の参列者には、大いに感激を与えました。終わって張奮牧局長から「太好了」の声と握手を求められたのがその評価であります。

コンパニオンの介添えによる、ティブカットがおこなわれ、爆竹が打ち鳴らされる中、工場の落成が宣言されました。招待者の工場見学が行われ、式典は11時30分に終り、バスを連ね、パーティ会場(和平郵賓館)に移動しました。巴卓の中華パーティ、中国式「乾杯」の連続で、1時間半、相当に美酒に

新工場正面竣工式飾りつけ



酔い、やっとのこととで宿舎に帰り着きました。ところが、18時から黒龍江畜牧局、主催の祝賀会が催されるとの急な案内、それぞれ、胃、肝臓は大丈夫か、と暫時休息の後、次なる会場に向いました。会場のホテルには居間のパーティでの同じ顔触れが参集しておられ、二次会と言った様相です。全く同じような料理で、張奮牧局長のご挨拶の後、例の「乾杯、乾杯」がさらに1時間半、97年8月8日の竣工の催しは長い長い一日でありました。因みに要した総費用は約10万円(日本円で約150万円)。

長が第23回、家畜衛生講習会開催のために出席が適わず、内野、船津、内倉杉本の各理事、(株)化血研から加久社長(会長)、副理事長、(株)管理部長緒方(同董事)、孟中国業務担当が列席いたしました。

中国での竣工式はどのように行われるのか……私たちは前夜から、それぞれ



竣工式での日本側代表挨拶(中国語)風景



竣工式に花を添えた中国服のコンパニオン



化血研出席者全員の記念写真

越して行きましたが、本日列席の貴賓を乗せたものでした。お役人の力が判ります……。

会場に着いた頃には雨も止み、各々、日頃の精進の良さを自負しました。式場には4本のアドバルーンが打ち上げられ、黄、青、赤等の旗、風せんのアーチが華やかに飾られています。開始時

生物技術有限公司の標を掛けた、中国服のコンパニオン20人に迎えられ、貴賓と招待者の入場です。

哈爾濱テレビ局、司会者による開式と進行がなされます。劉董事長(兼總經理)の挨拶と経過の説明、次いで貴賓者を代表して、黒龍江省人民政府、趙羽副秘書長の祝辞がありました。三



## 第23回

## 家畜衛生講習会 並びに 研究協議会 プログラム

◆期日/平成9年8月5日(火)・6日(水)・7日(木)

◆場所/財団法人 化学及血清療法研究所 厚生会館3Fホール

熊本市大塚一丁目6番1号 ☎(096) 344-1211

## 第1日目 8月5日(火)

受講者受付 12:00~13:00

開講式 13:00~13:30

①「最近の家畜衛生事情」 13:30~14:30

農林水産省 畜産局 衛生課長 矢ヶ崎忠夫 先生

——休憩—— 14:30~14:40

②「動物用ワクチンをめぐる問題」 14:40~16:10

農林水産省 動物医薬品検査所 検査第一部 部長 福所秋雄 先生

③「家畜の抗病性とDNA診断について」 16:10~17:40

農林水産省 家畜衛生試験場 生体防御研究部 部長 関川賢二 先生

## 第2日目 8月6日(水)

④「愛玩鳥・野鳥と疾病」 9:00~10:30

岐阜大学 家畜微生物学講座 教授 平井克哉 先生

⑤「豚流行性下痢(PED)について」 10:30~12:00

農林水産省 家畜衛生試験場 九州支場 臨床病理研究室 室長 末吉益雄 先生

——昼食—— 12:00~13:00

⑥「家畜の大腸菌症について」 13:00~14:00

財団法人 化学及血清療法研究所 第二製造部 次長 松尾和夫 先生

⑦「口蹄疫の問題点」 14:00~15:30

農林水産省 家畜衛生試験場 海外病研究部 部長 難波功一 先生

菊池研究所見学 15:30~17:30

懇親会(於 熊本ホテルキャッスル) 19:00~21:00

## 第3日目 8月7日(木)

⑧「プリオン病とその診断」 9:00~10:30

帯広畜産大学 獣医公衆衛生学講座 教授 品川森一 先生

——休憩—— 10:30~10:40

⑨研究協議会 各講師 10:40~11:40

〔座長〕 農林水産省 家畜衛生試験場 九州支場長 小河 孝 先生

閉講式 11:40~12:00

家畜衛生講習会、  
盛会裏に終了

第②製造部第②課

本田 隆

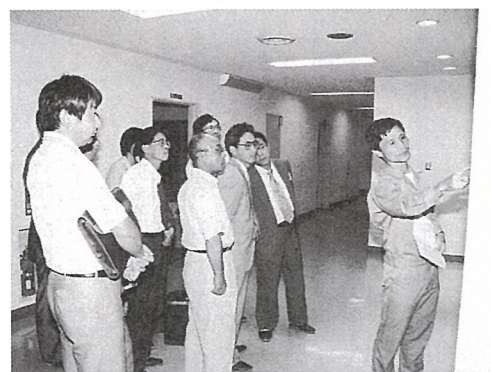
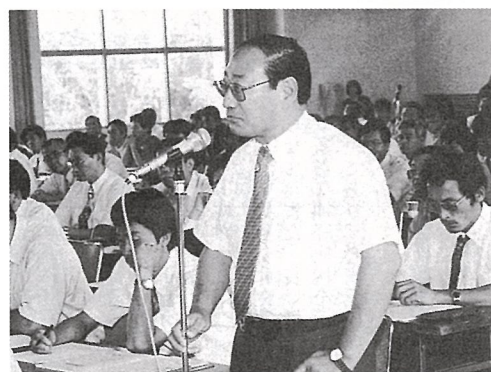


第23回の家畜衛生講習会が8月5日から7日の3日間に亘って当所の厚生会館ふれあいで開催されました。本講習会は昭和28年にスタートした歴史の古い講習会で、概ね2年に1回全国の家畜保健衛生所の先生を中心に、家畜衛生分野で活躍される方々が参集され、最新の家畜衛生事情や疾病の発生状況、その予防技術など、その時々の話題の紹介が当代一流の講師によって行われてきています。今回は受講生176名、聴講生76名の計252名にも及ぶ過去最多の方の参加がありました。発表された演題の内容を簡単に紹介します。





## 家畜衛生講習会



## I 最近の家畜衛生事情

最近の家畜伝染病の発生はワクチンの開発・普及、防疫体制の整備もあり、総じて平穏に推移しています。しかし、伝染性海綿状脳症(TSE)、豚の流行性下痢(PED)、トリインフルエンザ、口蹄疫など内外での発生例を踏まえて家畜伝染病予防法の改訂や防疫体制の整備が講じられています。また、ヒトでのO157やサルモネラによる食中毒が社会問題になっていることから、国際基準に適合した高品質で安全な畜産物を供給する生産衛生管理体制を導入するという目的でHACCP方式の導入が検討されています。

## II 動物用ワクチンをめぐる問題

畜産物等の輸入自由化の拡大等の要因で畜産業の長期低迷が続く、動物用医薬品の市場は成長力を奪われ、長期的に横這い、微増の推移を続けています。一方、内外価格差の是正に対するユーザーの要請は強く、厳しい競争社会に突入しており、動物用ワクチン業界においてもこの傾向が顕著であります。また、欧米の動物薬企業の世界戦略からこれらの企業の日本進出も目立っています。これは他の分野に比較してワクチン市場に拡大傾向が見込まれることや国内での規制緩和によるものと考えられます。

## III 家畜の抗病性とDNA診断

我が国での畜産は多頭化、集約化が進んだ結果、飼養環境の変化により家畜の生理機能や免疫機能の変調による慢性疾病や日和見感染症あるいは生産病が顕在化したり、新興・再興の感染症が広がる危険性が危惧されています。一方、食品の安全性が国民の大きな関心事となり飼料添加物や抗生物質、ワクチンの多用による家畜衛生、飼養管理にも問題が指摘されるようになってきました。ヒト、マウス、家畜の生体防御機構の解明及びゲノム解析の研究の進展により疾患の原因や抵抗性を遺伝子レベルで明らかにし、DNAマーカーによる抗病性家畜の育種改良に道が開かれています。

## IV 豚流行性下痢(PED)について

1970年代から1980年代にかけて世界中の豚で原因不明の流行性下痢が発生、流行しました。それらの下痢便中にはコロナウイルス様粒子が発見され、既知の豚伝染性胃腸炎(TGE)ウイルスとは異なる新しいコロナウイルスとしてPEDウイルスと命名されました。1996年には南九州を中心に本病の大発生がみられ、死亡頭数が4万頭にも及んでいます。演者はPED発生農場の惨状を目の当たりにされた経験を経て、これらの発生状況、疫学成績、病態、診断、予防法について紹介されました。第二製造部開発室で検討中のワクチンの開発が待たれます。



「いしがき」300号の発行を迎えたこの年は、「化血研の森林(もり)」植樹祭が行われ、環境の保全に貢献してゆく財団としての方向性も明確化してゆきました。

## 瑞気集門

酒匂光郎

創業最長の血涙のうしろ金庫に  
重宝化し、口内金庫一丁番  
になつて、金庫の御守り  
向うの確固とした努力  
叱咤を響かせ、光輝



## 企業にも三つの坂あり

—— 驕らず、嘆かず、耐えて勝つ ——

所長 酒匂 光郎

行政改革を火達磨になって行うと公約した橋本内閣も郵政事業民営化で激しい抵抗を受けたのをはじめ、沖縄基地問題など遅々として進まず、政党間の論戦の方が強く感じられます。

一方、経済大国と云われた日本をはじめ、基盤が脆弱と云われたながら経済成長の伸びが目覚しかった東南アジア諸国が、タイの通貨不安にはじまり韓国経済まで及ぼす混乱と、金融業界の激動等の中、全業種共、先が見えないまま平成九年が終り、平成十年の年明けとなりました。

私共を取り巻く環境も「血液行政のあり方に関する懇談会」「ワクチン総合施策検討委員会」の提言、「公益法人に関する基準の改正」など、すべての担当部署が大きな検討項目を解決して行かなければならない問題が山積しております。当所では、職員の方々の協力のもと、二十一世紀へ向けてあらゆるハード面、ソフト面の検討、実行を着々と進めており、各委員会諸君の弛まざる努力に心より感謝いたします。

「まさか」の時は坐折する事なく、克服して行く事が大事と思い年頭挨拶の題といたしました。

昨年の下半期は、営業実績を見ると「まさか」という坂に遭遇した感が大であります。我々は、この「まさか」と思った坂をどうしても克服しなければなりません。この坂は、思わざる時

す。  
本年は、昨年より一層進行を速めねばなりません。化血研を永続させるため、耐える時は耐え、よろこぶ時は共によろこび、基盤を尚一層強固なものに充実に各々の任務をしっかりと目標にかかげ、必勝必達の信念のもと、平成十年を突き進んで行きましょう。

平成九年度より平成十一年度までの中期経営計画を作成しました。この中に述べています経営方針と重点課題を基として実行して行きます。

昨年度上半期の実績を昨年十月に各部毎に報告して頂き、略々、計画通りの進行状態であることを聞き心強く感じました次第であります。

人生には、「上り坂」あれば「下り坂」もある。そして「まさか」という坂もあると云われます。これは企業に於いても云える事であり、表題に掲げ副題として「上り坂」の時は驕らない事、「下り坂」の時は嘆いてばかりいないで、上昇させる努力をする事、



No.296 (1月号)より

内野 矜自  
今こそ団結の年  
内倉重入  
明日を見つめて  
今日を確かに  
田代 昭  
激動の年と思つて  
将来の動向と見抜き  
適正に対処せし  
杉本 紘一  
重点志向  
集中徹底  
加久 昭次  
手応えある仕事  
寄るに  
元氣よく  
本田 憲と助

No.298 (3月号)より

## 第1回

# MR認定試験について

営業部 学術第1課 福島 浩



表1 製薬情報担当教育センター役員・評議員名簿 (五十音順)

理事長	高久 史磨	自治医科大学 学長
理事	上田 慶二	東京都多摩老人医療センター院長
	上野 公夫	日本製薬工業協会副会長
	鎌田 薫	早稲田大学法学部教授
	杉浦 好昭	医薬工業協議会会長
	三宅 浩之	㈱日本医薬情報センター理事長
	森岡 茂夫	日本製薬団体連合会会長
	山崎 幹夫	千葉大学名誉教授
	渡邊 俊介	日本経済新聞社論説委員
監事	利郎 脩二	医療用医薬品製造業公正取引協議会 専務理事
	滝澤 英一	さくら銀行常務取締役
評議員	井田 良	慶應義塾大学法学部教授
	上原 昭二	元日本医薬品直販メーカー協議会副 会長
	梅田 昭夫	㈱日本歯科医師会副会長
	浦川 道太郎	早稲田大学法学部教授
	猿田 享男	慶應義塾大学医学部医学部長
	菅谷 忍	㈱日本医師会常任理事
	鈴木 正	㈱東京医薬品工業協会会長
	瀬戸 四郎	㈱日本臨床検査協会常務理事
	中島 新一郎	㈱日本病院薬剤師会副会長
	藤原 富男	大阪医薬品協会会長
	吉本 興一	㈱日本薬剤師会副会長

以前、いしがきでもお伝えした第1回MR認定試験が、昨年12月14日、全国で実施され、本年2月3日に、結果が発表されましたので、速報致します。

第1回試験は、現行の約5万5000人のMRを、5回に分けて実施する最初の試験で、第1回には、センターによる抽選で決定した約1万3000人、そのうち、当所からは、13名が受験しました。

当日は、全国11地区14会場で一斉に実施され、九州・沖縄地区は、福岡の

第一薬科大学が会場となりました。科目は、疾病と治療など6科目で、午前9時から午後5時15分まで、知識以外に体力も必要な模擬なものでありました。

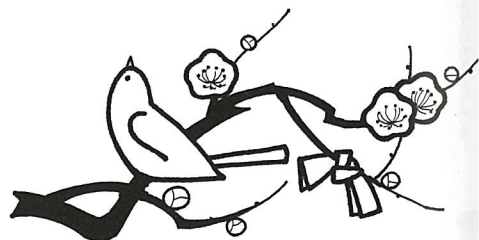
実施は、別表の「財団法人医薬情報担当者教育センター」(昨年12月設立、高久史磨理事長で、慎重に検討を重ねた結果が、さる2月5日付で、各製薬企業に郵送で通知されました。合格者数は1万1162名(合格率83%)かなり高いように思えますが、現にMR活動をしているMRの約2000名が不合格の通知を受けたことは、大変厳しい結果だと思えます。

当所の受験者は、文才比率が高く(約70%)、業界平均50%、科目免除者が少ない(1名7%)、業界平均30%中で、受験者13名全員が合格致しました(11名・85%)。

医薬品業界を取り巻く環境は、大変厳しく、MRも21世紀に向けて、資格が業務遂行の必須条件となる中で、第1回目の受験者が、全員1回で合格したことは、大変喜ばしいことです。所外で、日夜業務に励みながら、努力を

男としても、鏡山先生の云々する「前力」「気力」「体力」が必要で、基礎体力をしっかりと作り、中期計画の二年目を進んで行きましょう。

最後になりましたが、新年を迎えられた、皆様と御一統様に、心よりお祝いいたしますと共に、幸多かれと祈りつつ挨拶いたします。





特集

## ザ・インタビュー

いつも感謝の気持ちを大切に

## 酒匂所長の歴史

◎今日は読者の皆さんの知らない所長の素顔に迫りたいと思います。まず、ご出身はどこですか？

所長●鹿児島県の知覧という所です。

◎ご家族との兄弟について教えて頂きたいのですが、所長 ●家族は息子夫婦、孫が2人、家内が1人。

## （二）同爆笑

男ばかり6人兄弟の長男で、次男が二十五歳の時に亡くなつてますので今は鹿児島市内に2人、熊本に1人、東京・名古屋に1人ずつおります。

◎お聞きしたところ奥様とすごく仲がよろしいといふことですが…

所長 ●まあ、それは ハッハッハッハ……

◎お生まれになったのは鹿児島県の知覧ということですが、その後という遍歴で化血研に入られたのですか？

所長●まず僕なんかの時代は終戦の時が中学2年ですから、それから昭和二十三年に学制改革で中学校が高校になったわけです。旧制中学校に入って新制高校になるわけですよ。昭和二十五年川辺高校を卒業して、同じく二十五年、熊本大学理学部に入って二十九年に卒業して、それから鹿児島

鳥の「さつま白波」で知られる本坊酒造に一年間  
おりました。その後昭和三十一年十月十五日、化  
血研に入所させてもらったわけです。

◎現在は入所後人事研修がありますが、所長はそのまま現場にいかれたのですか？

所長 ● 以前は随時入所していたので、直接現場に配属されました。

◎入所当時の苦労話を是非聞かせていただきたいのですが。

所長●ああいいですよ。家内が熊本出身だったの  
でこちらに移ったんですよ。当時化血研の日給が  
三百円、一ヶ月にすると七千五百円ですよ。その頃  
子供のミルク代が月四千円かかっていたことだけは  
忘れません。

◎一ヶ月ですか？食費だけでほとんどなくなってしまうですね

島にいた頃は、家内も共働きで学校に勤めていたのですが、子供が産まれたからは、七千五百円の給料のうちの四百円をミルク代に使っていた。給料日は家内が貯めていた自分の貯金をおしてしましました。そういう時代だったんですよ。その間だいが組合の方もさせてもらってたけど。

来なかったんです。女性にとってはあまりおもしろくないわけですよ。清水に移るときも、こちらでももう一つ作って欲しいという要望がありましたけど、それは無理なんですよ」ということで床屋はそこで閉店してしまつたわけです。

それからね、その頃所内にはたばこ販売がありましたので、お城の近くの磐根橋のそばまで買いに行かなければいけなかったんですよ。それは不便だということで組合で煙草販売権をとろ



## 酒匂 光郎 所長

テクノセンターロボット画

## 酒匂所長と組合活動

◎当時、組合活動はどのような事をされていたか？何かイベントなど…

所長●特に今のようないイベントというのはなかったね。思い出といえば、まだ化血研が古京町にあった頃、血液銀行がありました。供血者が朝早くきて、寒い冬はそこら辺りの木でたき火をして暖をとる

れまうて、ずーっとそこにいましたよ。すると夜中の一時過ぎに部長が「真面目にやとるかい」と様子を見て来られたんですよ。最初に課長から当直しろと言われるわ、今度は部長は夜中に来られたら、もう一つはもう一所に来てしまったと思つたもんですよ。

◎それはすごく強烈ですね。忘れられない三日ですね  
ところで何故夜中に部長さんがこられたのですか？  
所長●どうやら、街で飲んだ帰りだったみたいです。ね。



## 特集

ザ・インタビュー



それは知りませんでした。大抵のことは先輩方に聞いていたんですけれども。化血研に床屋があったんですね。

所長 ●そうですね。組合で理容師を探して雇い、賃金は組合から払っていたんですよ。

◎では、もしかすると散髪料は無料ですか？

所長 ●いやいや、それはいくらかとはとりません。ただし安くね。床屋の評判は良かったのですが、女性の職員から「パーマもやって欲しい」という要望がありました。しかし、パーマは時間がかかるので当然出



S34年、長男利夫さんと

したが、私が時々組合の人たちに言っているのは、やりたない事を自分たちでやってみて、それから組合の活動として取り入れてはどうか、という事です。今思い出しても、床屋は本当に面白かったですよ。

◎やつてみて初めて苦労や良さがわかるものですかね。

## 酒匂所長とインフル

◎入所した時の所長は、どなただったのでしょうか？

所長 ●竹屋先生でした。入所当時はインフルのアジア風邪で忙しかつたんですよ。いきなり初日から「インフルに手伝いに行け」と言われ、言われるがままにそこへ行くと今度は課長から「今夜当直しろ」と突然言われたんですよ。

◎入ったその日に、きなりですか？

所長 ●そう、「そうですか？」とそこへ行きました。現場にはシャーレスという高速遠心機が一台あって冬場結露とオイル切れをしないようにずっと見ておく仕事だったんです。そこから動いてはいけなかったで「その前まで本読んで勉強せよ」と言わ

はここにしろ」と言われ、結局その一言が異動だったんです。(笑)そういうことで私はインフルに行くことになったわけですね。

◎でもそれがずっと続いて、インフルといえ酒匂所長という感じを受けますけれど。きつと、それは運命だったのでしょうかね。所長はインフルの課長をされていた頃もあったそうですが。

所長 ●そうですね。その頃インフルで失敗した事があって、あの時はきつかったですね。

◎どういう失敗だったのですか？

所長 ●結局全部検定に合格しなかったんですよ。大変なダメージを受けました。しかし、この時は周囲の皆さんに助けてもらい立ち直ることが出来ました。皆さんのお陰で化血研の仕事というのは成り立っている、仕事なんて何二人では出来ないと思えましたね。

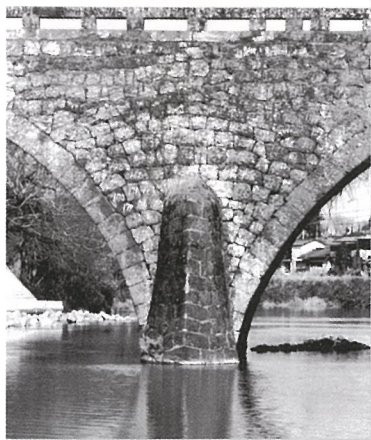
No.300号より

いしがき

- 表紙写真によせて
- 300号発行によせて
- 歴史エッセイ
- 寄稿文
- 300号記念特別企画

1998 No. 300

300号

化血研  
所内報



## 植樹祭レポート

## 化血研の森林

総務部総務課 猶野 輝彦

去る4月19日、矢部内大臣国有林において植樹祭が行われました。

植樹祭当日は快晴の空のもと、化血研職員や、熊本営林局、矢部営林署、矢部愛林の方々、総勢50数名で苗木を植樹しました。急な斜面に悪戦苦闘しながらも、心地よい汗を流してきました。

それでは、今回の「化血研の森林」をご紹介します。

## 場所

矢部内大臣国有林、標高870m（昨年植樹祭を行った造林地に隣接しています。）「化血研の森林」の近くには「漁民の森」や「子供の森」もあります。

## 目的

水の大口取水事業所である化血研が、昨年に引き続いて水源かん養をより一層推進することを目的としています。

## 植樹本数と種類

3.68ヘクタールに約11000本、ケヤキやブナなど8種類。全て高木落葉広葉樹です（木が成長したらその落葉がスポンジの役目を果たし水を蓄えます）。

そんなわけで、皆さんも一度は「化血研の森林」に行ってみませんか？ 溪流釣り、林道越えのツリーング、国見山への登山等、運が良ければ鹿に遭遇できるかもしれません。アウトドア大好き人間にはたまらない場所だと思います。但し、現地に行かれた際は、苗木の成長を助ける下刈りもして下さいね！

## 「除幕式」

標柱は、矢部愛林の方が山で見つけた大イチョウの間伐材で作られています

## 酒匂所長のご挨拶

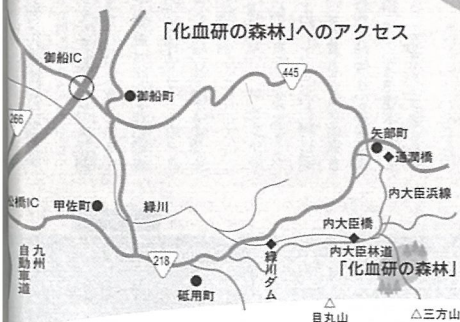


## 野北矢部営林署長のご挨拶

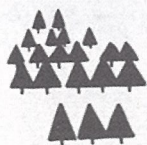


## 坂本熊本営林局企画官のご挨拶

## 「化血研の森林」へのアクセス







植樹作業開始



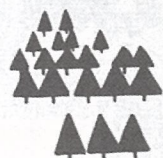
苗木を植える穴を掘っていたら  
なんと、山椒魚が現れた!



生管、石原課長の娘さん  
ナオちゃんも頑張りました



植樹の記念プレートに熱心に  
何かを書いている松田次長



植樹を終えて昼食タイム  
作業を終えた後のおにぎりはおいしい!



田代理事の閉会の辞



標柱を囲んで、みんなで記念撮影



Aso.  
Symposium

No.305(9月号)より

く続けるのである。

さてシンポジウムが近づく、これまで参加予定だった先生のキャンセルや追加がにわかに多くなる。その度に、宿泊表やメンバー表を作り替え、対応していく。

シンポジウムの当日は、まさに緊張の連続である。午前11時ごろから先生方が、阿蘇観光ホテルに集まってくる。受付の担当者は、先生の顔と名前を即座に判断し、ネームカードと資料をお渡しする。

12時すぎにピークを迎え、受付は、パンク状態になる。講演の先生方は、化血研の決められたスタッフが同行し、ホテルにお迎えする。

午後1時、シンポジウムはスタートする。阿蘇高原の空

Aso.  
Symposium

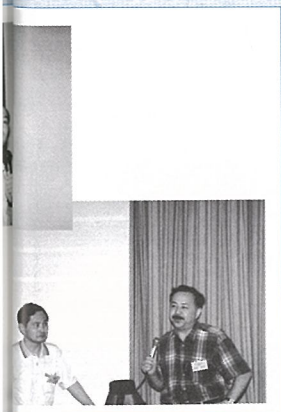
研究管理課 前田 敏 宏

Aso.  
Symposium

8

阿蘇シンポジウムは、数あるシンポジウムやセミナーの中でも極めて格調高く、純粋に学問に徹した第級のシンポジウムである。これも世話人の先生方や講演者の皆様の尽力のおかげといえる。今回は、そのシンポジウムを裏方の事務局員の立場から紹介してみたい。

阿蘇シンポジウムの準備は、ちょうど1年前から始まる。まず、1年前に日程の設定と会場の阿蘇観光ホテルの予約を行う。そして、世話人の先生方より、シンポジウムのテーマと講演予定者の先生の名前をいただく。それをもとに、講師の先生方と交渉し、講演の了承をもらい、題目を決めてもらう。この間、長いときで数ヶ月を要する。シンポジウムの演題が揃うと演題案とポスターを作る。今年は、免疫学のニューフロンティアというテーマで、最新の免疫学の知見が報告されることになった。そのためか、参加希望者は、過去最高を数え、事務局はうれし悲鳴を上げた。しかし、昨年の1.5倍の参加者には対応する。会場の広さは大丈夫か。先生方の宿泊のためのどのように部屋割りをするか。講演者の送迎や阿蘇までのルートはどうか決めるか。どれひとつとっても神経のビリビリするような仕事である。うまくやって当たり前、ミスがあったら取り返しがつかない。こんな作業が一番大変なのである。阿蘇シンポジウムの裏方は、こういう毎日を二年近





# Aso Symposium

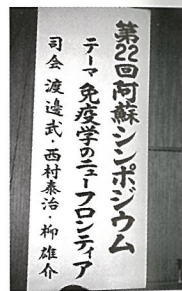
例年以上にすごい。会場には近寄りにくいムードさえ漂う。午後7時前にようやく1日目を終え、懇親会に入る。世話人の先生や酒匂所長の挨拶で、これまでの緊張がフツとほぐれ、出席者一同、懇親会にといけ込んで行く。いつものことだが、阿蘇シンポジウムの懇親会は、本当に気さく

でアカデミックだ。著名な先生方と直接話が出来る場でもあるので、化血研の職員もチャンスを見計らって先生達とコンタクトする。特に若い研究者には、貴重な場といえる。懇親会は、夜遅くまで行われ、2次会、3次会とつづける方もいる。遅い人では午前3時ごろまで、討論にふける先生もいる。

翌朝は、ホテルの温泉で目を覚まし、心と頭を清め、2日目の講演に入る。2日目になっても、受付する先生がいる。裏方に休みはない。昼の12時になり、2日間の阿蘇シンポジウムにようやく幕がおりる。今年は本当に盛会であった。先生方にも充実感が漂う。免疫学のニコープロティア、その名のとおり、今回のシンポジウムは、免疫学に新しい風を吹き込んだようである。我々裏方は、先生方の帰りの準備にとりかかる。

足の準備や事後の処理に走り回る。先生方の予定外の行動にしても対処し、午後2時ごろになるとようやく一段落ついてくる。ホッとすると同時に、このとき来年の阿蘇シンポジウムの日程が定められ、その準備が再スタートするのだ。

来年も今年のように盛会であることを祈りながら事務局一同、また新たな一歩を踏みしめるのである。





株式会社化血研が50年の歴史に幕を下ろし財団へ移管した年です。本所では、R棟が竣工し製造プロセスの基盤が確立してゆくさぎの年となりました。また「第1回AIM」開催など、対外事業にも力を注いでいます。

# 1999

平成11年

## R棟建築・設備 竣工立会検査報告

生産管理部 資材課 笠井恭介

### ●●● R棟建物概要 ●●●

■建築面積	3,570m <sup>2</sup>	■延床面積	16,651m <sup>2</sup>
■軒高	30.4m	■最高高さ	31.0m

4F } プラント設備	
3F }	
2F	分注・凍乾設備
1F	包装ライン、自動倉庫(資材倉庫、検定品倉庫)

元請施工者／(株)日立製作所  
建築施工者／大成建設(株)

去る平成10年12月8日に、R棟建築・設備竣工立会検査を実施しましたので報告致します。  
R棟は、ご存知のように平成9年11月1日に工事着工し、平成10年12月10日竣工引渡を完了するまで約13カ月を要しました。  
竣工に至るまで、生産技術課を中心として約70件にも及ぶ立会検査、あるいは空調を主としたバリデーション検査を行い、11月25日の消防検査、11月26日の建築検査を無事パスした後、今回の竣工立会検査を迎えたわけです。

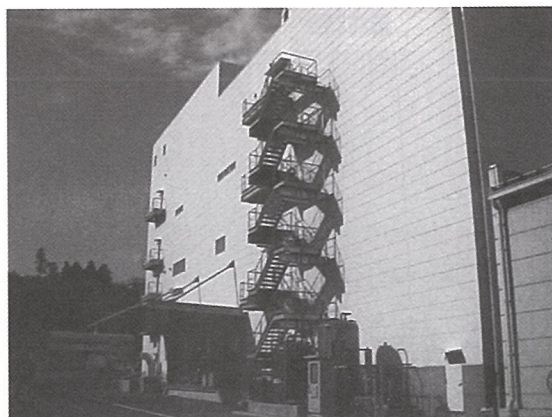
ここで簡単にR棟の建物概要を説明しておきます。

竣工立会検査には酒匂所長をはじめ多くの方に立ち会っていただき無事検査を執り行うことができました。

今後、R棟は物流システム、生産システムのシステム稼働(2月)とともに包装設備、分注・凍乾設備の試運転、バリデーションが本格的に開始され(1月～2月)平成11年度稼働にむけてラストスタートに入ったといつていいでしょう。

尚、プラント設備については6月竣工、8月頃から順次稼働の予定で進行しております。

以上

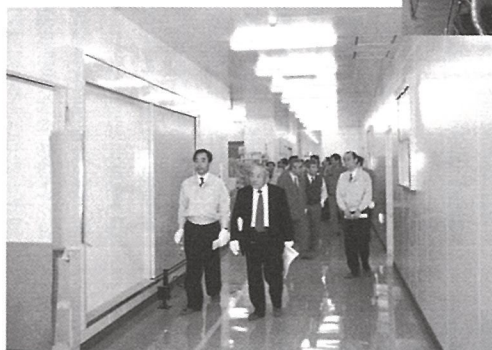




No.309 (1月号)より



竣工検査会場



R棟廊下



R棟廊下



R棟1F包装室



# 公益法人問題について

経理部 経理課 榎田 浩

## はじめに

昨年末、いしがき編集委員会事務局より公益法人問題について寄稿せよとの仰せを承りました。公益法人問題とは、株式会社化血研の事業移管と解散をもたらすなど、我々を直撃している大きな問題です。しかしながら、なぜこのような事になってきたのか?という点については、知らない方が意外と多いのではないのでしょうか。私自身、公益法人問題委員会の事務局を務めなければ知り得なかつたであろうことが数多くあります。このため、皆さんに様々な問題点を説明することはやぶさかではないと、二つ返事でOKを出しました。

ところが原稿の枚数を尋ねましたら、一年間、12回に亘る連載とのお話です。そんなに書くことは無いと主張したのですが、どうしてもと押し切られてしまいました。そういう事情ですので、内容の充実度には若干不安が残りますが、これから一年間宜しくお付き合いのほどお願い申し上げます。できうる限り分かりやすい、また可能であれば面白い文章を心掛けますが、内容が内容だけにキーワードとして見慣れない用語を使わざるを得ない部分もあります。この点、予めご承知おきください。

また、本連載の内容は、行政側の公益法人指導の中心である内閣総理大臣官房管理室公益法人行政推進室の担当官や、公益法人会計にお

詳しい公認会計士の小宮徹先生から得られた情報を元に構成しております。

## 【公益法人の定義】

公益法人とは、民法第34条に基づいて設立される社団法人又は財団法人のことです。なお民法以外の法律に拠って設立される社会福祉法人、学校法人、医療法人等も「広義の公益法人」に含まれますが、本項では民法34条に基づいて設立される社団及び財団を指すものとします。

### 民法34条

祭祀、宗教、慈善、学術、技芸其他公益に関する社団又は財団にして営利を目的とせざるものは主務官庁の許可を得て之を法人と為すことを得

## 【公益法人を取り巻く現状】

数年前から、公益法人に関する報道を頻繁に目にするようになりましたが、これは自民党行革プロジェクトチームの報告をきっかけとしています。

かつて行政改革のひとつのテーマとして「特殊法人」が挙げられていましたが、特殊法人に関する問題点の提起や具体的な改革案が固まるにつれて、行革の次のターゲットが公益法人にシフトしたものと思われれます。マスコミの報道は現在、一時期よりも沈静化していますが、公益法



人に関する問題点を捉えては報道するという批判的な姿勢には変化がないようです。そしてその批判は当所には関係の無いものばかりなのですが、参考までにその内容を記載しておきます。

①公益法人行政批判：公益法人と行政との関わりを指摘するもの。たとえば、あたかも国家資格であるかのように資格試験を行なう公益法人や、国のお墨付きを取得しているかのように行政的行為（許認可など）を行なっている公益法人などが指摘されています。行政の末端で曖昧な形で存在しているという点が厳しく追及されるわけですが、この類の報道が件数的には最も多いそうです。

②天下りの温床となっている。行政からの指導が不十分であるなど、どちらかというと行政に向けた批判です。

③公益法人そのものの売買：ご承知の通り、法人税法上は株式会社等の営利企業よりも公益法人の税率の方が低く定められています。このため、公益法人を支配下に置き、節税に利用しようとする者がでてくるわけです。この件に関してはNHKも特集を組んで放送しましたので、目にされた方は多いと思います。

また、マスコミによる批判ばかりではなく、国会においても議論されてきました。いささか古いですが、第140回通常国会で公益法人問題に関連して提出された質問や要望などには以

下のようなものがあります。

①包括的質疑「Q、公益法人問題を如何に改革するのか」「A、指導監督基準を厳格に運用する」

②Q、国との関係の深い公益法人の増加防止の取り組み如何。

③Q、補助金を受けており、かつ居酒屋を経営している公益法人がある。この補助金給付は如何。

④民主党から公益法人に関する膨大な量の資料請求が行われました（各府庁別公益法人一覧、各法人の事業ならびに会計報告書等）。現在、公益法人は約二万六千法人ありますが、全ての公益法人に関してこれらの資料を提供することは、ほとんど不可能な要求であったため相当な削減を要請したとのこと。それでも前回は全案について70ページだった提出資料が公益法人関係だけで100ページ増加したそうです。

このように、マスコミ・国会において、公益法人がターゲットとされたのが4年ほど前からのことです。（以下次号）



# 株式会社化血研の事業移管と 解散について

株式会社化血研は、本年4月1日をもつてその全事業および社員を財団に引き継ぎ、その後解散することになりました。この決定に至った経緯は以下の通りです。

平成9年12月16日に「公益法人の設立許可及び指導監督基準（以下「指導監督基準」）」が閣議決定され、財団法人が株式を保有することが原則禁止とされました。

株式会社化血研は、周知の通り当所の100%出資子会社（株式の100%を当所が保有）であるため、急ぎ現状を是正しなければなりません。上記の方針は、この是正策として決定したものです。

最も単純な解決策は株式の全部を第三者へ売却することです。しかし、株式会社化血研の資産規模からして、買収しようという第三者の出現は期待薄です。また、仮に会社を売却できたとしても、指導監督基準では株式保有による資本的支配とともに、役職員の兼務・出向による人的支配も禁じられており、出向者の処遇が問題となります。さらに、完全に第三者の所有する会社となれば、これまでのように財団との協力関係を維持することは困難となりましょう。

この他、株式会社を「株式保有原則禁止」の「原則」からはずすことによって保有を継続する状態にすることがあります。

当所では、本年3月末日までの間に株式会社化血研と協力して、その事業をスムーズに引き継ぐための種々の検討と実務作業を進めています。従業員の皆さんが、正しい理解のもとに、この作業に一致協力してい

続する方法はないか等、実に様々な案を多面的かつ十分に検討してきました。そのうえで、最善の策として株式会社化血研の事業を財団として許容される形で継承し、株式会社そのものを解散するという結論に至ったものです。

以上のような背景を踏まえて、本方針に対する皆さんのご理解とご協力をお願いします。

なお、化血研ビジネスサーピス株式会社も株式会社化血研同様に現状を是正する必要があるしました。しかしこれは、その規模が小さいことから部長以上の役員に売却することでも処分しました。また、株式会社化血研の解散に伴い、黒龍江化血研生物技術有限会社は最終的に財団の出資下となつてまいります。これでは、再び株式等の保有問題となりますので、次のような方法で問題を回避します。

指導監督基準には、株式等を保有しても良い例外が2つ明示されていますが、そのうちのひとつに「基本財産とすることを指定して寄附された株式等」が挙げられています。合併会社は、この例外規定に沿う形で株式会社化血研から財団へ寄附することとします。これにより、合併会社は従来に近

## （株）化血研解散スケジュール

●平成11年3月31日

（株）化血研の合併会社に対する出資持分



所内報告



50年のあゆみ (特別号) より

# 写真で綴る50年



株式会社 化血研

昭和24年頃 京町研究所全景



昭和38年頃 東京(株)化血研玄関にて



昭和23年頃 京町研究所事務所風景



昭和38年1月4日 (株)化血研 福岡 社屋前にて

1999年9月6日  
株式会社化血研は  
50年の歴史に幕を引きました。

- 平成11年5月下旬
- ①(株)化血研から財団へ事業譲渡
- ②財団へ(株)化血研出向者は復帰(解散・清算に要する職員を除く)
- 平成11年9月
- (財団の株式処分期限)
- 清算終了、清算所得の申告、残余財産を株式(財団)へ分配
- ②清算作業開始
- ①(株)化血研の株主総会で解散決議(但し、会社は清算終了まで存続)



(財)化血研司催

【第128回日本獣医学会学術集会】が  
熊本市で初めて開催されました。



経緯

先の10月13日(水)～15日(金)の3日間、熊本市民会館、熊本市国際交流会館及び熊本市産業文化会館で、化血研(以下当所)司催による「第128回日本獣医学会学術集会(会長 山田進)」が開催されました。この学術集会は日本獣医学会が主体となつて、大正11年の第二回以来、ほぼ年2回(春は東京で、秋は地方で実施されています。司催機関は、主として獣医学部(学科)のある大学が担当してきました。大学以外では、家畜衛生試験場、国立公衆衛生院、日本生物化学研究所(日生研)、千葉血清研究所、日本中央競馬会競走馬研究所などとも司催経験を持っています。九州では、鹿児島

大学と宮崎大学以外では開催されることがなく、熊本市で、しかも当所が司催を引き受けるのは初めてです。

当所が本学術集会を司催することになった発端は、3年以上前まで遡ります。平成7年9月、当時日本獣医学会監事の御人であつた故倉益茂実先生(日生研)から、当所の山田進(常務理事(当時))に、獣医学会司催の打診がありました。その後、当所常務会でこの申し出を受けることが決定され、今回の学術集会司催が実現した訳です。学術集会の司催は当所にとって非常に名誉なことです。これは、これまでの当所の獣医学分野での研究業績が、広く世間に認知された結果と言えます。昭和23年に当所が動物用生物学的製剤の開発に取り組みようになって以来、多くの先人達が延々と積み重ねて



きた数々の業績があったからこそ実現できた快挙です。

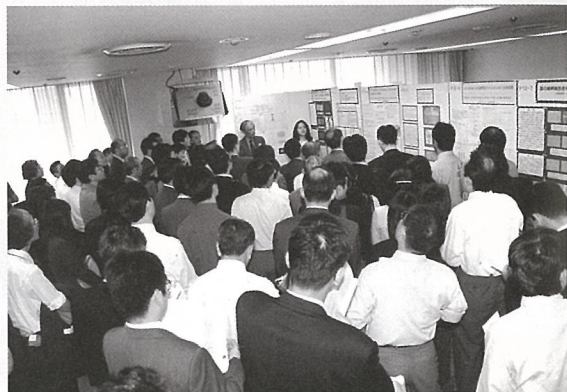
当所による学会司催が決まるとその準備に取り掛からなければなりません。その頃は誰もが「まだまだ3年先だ」という気持ちでした。しかし、今振り返ると、その3年は瞬く間に過ぎてしまったようです。開催を無事終了できた今、その準備と開催に関する概況を取りまとめてみました。

## 開催準備

最初に取り組んだのは、運営委員会とその下部組織(いわば実行部隊)の準備委員会の設立でした。運営委員会には運営委員会規約も制定しました。開催に向けての計画は、準備委員会のメンバーが中心となつて作成、これを運営委員会に報告、承認してもらう形で進みました。最終的には運営委員会が5回、また準備委員会が13回開催されました。

学術集会会場の選定は地の利を重視し、前述の3会場としました。必要な会場数を確保するには狭い会場(室)も設定せざるを得ませんでした。何とか確保出来ました。

最も重視し、苦労したのはプログラム編成です。開催3日間の演題プログラムをどう組むか、学会本部とも十分に打合せ、当所の特色を生かしたものを目指しました。その結果、統一シンポジウムやワークショップ(10テーマ)を組み入れ、ポスター発表もセッション毎に小部屋を設定し、座長と演者の口頭説明を採用しました。さらに、教育講演、公開講

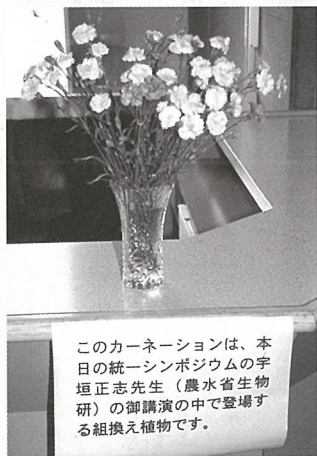


演も取り入れたのです。これらのプログラムは3日間の会期をフルに活用しなければ消化しきれない程のものになってしまいました。しかし、結果的に予想を上回る1,331名の会員が参加されたことは、今回のプログラムが興味あるものであったからだと思います。

演題数も667題を集めることができました。これら演題のセッション分けや座長選定には鹿児島大学獣医学科の先生方に協力していただきました。当所だけでは、不得意分野(例えば家畜外科・内科、

生理・薬理、解剖、繁殖学等)の演題区分けや座長選定が難しかったためです。

プログラム掲載の講演要旨集作成は開催前の最大の仕事でした。印刷製本は業者に依頼しますが、その構成と校正は全て当所の責任になります。人名(所属)の印刷ミスは皆無を目指しました。過去の学会では多くのミスを見てきただけに、この校正には最大の注意を払ったつもりです。しかし、結果的にはお二人の名前が間違っていました。この先生には大変申し訳ないことでした。講演要旨集の末尾には人名索引を載せましたが、これも大変苦労したひとつです。外国の先生や特殊な読み方の先生の名前は特に注意が必要でした。



このカーネーションは、本日の統一シンポジウムの宇垣正志先生(農水省生物研)の御講演の中で登場する組換え植物です。



この年は、酒匂所長から内野所長へ役員人事が行われました。  
ECOプロジェクトが立ち上げられ、ISO14001認証取得へスタートしました。

## 試薬事業撤退にあたって（試薬関係者懇談会報告）

試薬・臨床検査部試薬課（元） 青山紀昭



3月17日、メルパルクにおいて標記の会合が開催されました。化血研試薬事業撤退が完了した機会に、化血研で試薬の開発・製造・営業に携わってきたメンバーが一同に会し、懇談するという趣旨で、試薬課に最後まで残った人、他部署に異動した人、関連部署の人既に化血研を退職し別の企業で活躍している人など、63名もの多くの方々の参加がありました。酒匂所長には、当日銀杏大学の卒業式謝恩会と掛け持ちで参加して頂きました。所長、船津常務理事、岡理事から、試薬事業撤退を決断した経緯、培った力を他の部署で発揮して貰いたいという趣旨のご挨拶を戴きました。その後はアルコールのせいで良く覚えていませんが、司会の梅橋部長の指名により多くの方のスピーチで賑わいました。





No.325 (5月号)より



最後に、多くの方々の協力、ご支援を得て、円滑に業務を終えることができました。特に、職員、パート全員が化血研を辞めることなく他部署に異動出来るよう配慮して頂いた人事課及び受入担当部署、試験課が所有していた資産を所内外で有効に活用できるよう努力して頂いた生産管理部、承継の手続きをして頂いた薬事部に感謝いたします。簡単ですが、試験関係者懇談会、撤退完了の報告といたします。

最後に、多くの方々の協力、ご支援を得て、円滑に業務を終えることができました。特に、職員、パート全員が化血研を辞めることなく他部署に異動出来るよう配慮して頂いた人事課及び受入担当部署、試験課が所有していた資産を所内外で有効に活用できるよう努力して頂いた生産管理部、承継の手続きをして頂いた薬事部に感謝いたします。簡単ですが、試験関係者懇談会、撤退完了の報告といたします。

No.321 (1月号)より

## The First Aso International Meeting (AIM)

Thrombosis, Hemostasis and Vascular Science 1999

# AIM 「阿蘇インターナショナル・ミーティング」 開催される!!



### はじめに

去る11月19日と20日の両日、化血研の主催で、『Aso International Meeting (略称AIM: Thrombosis, Hemostasis and Vascular Science 1999)』をタリントン・アソ郡において開催しました。本会は阿蘇シンポジウム、家畜衛生講習会に次ぐ当所の二つの公益事業シンポジウムとして計画したものです。本会は、血栓止血学や血管病学分野で活躍されておられる国内の若い先生方の研究に、化血研として何とかお役に立ちたいとの希望から、国際レベルでのミーティングを開催して研究成果について自由に論じ合える「場」を提供することを目的としたものです。

平成10年9月に第一回世話人会を名古屋で開催して、本カンファレンスの名称、開催日、会場、参加人数などが取り決められ、本会規約の議決をもつ本格的な準備作業に入りました。これ以降AIMの開催進行に至るまで、シンポジウム全般に渡るご指導をいただいた世話人の先生方は次の通りです。

名古屋大学医学部 斎藤英彦先生(代表世話人)  
京都大学医学部 中尾和先生  
東京大学医学部 安藤謙一先生  
熊本大学医学部 岡嶋研一先生  
自治医科大学医学部 坂田洋先生  
国立循環器病センター研究所 宮田敏行先生



# Executive Interview

エグゼグティブ・インタビュー

常務理事 内倉 重人

Q：化血研をどのような研究所にしたいですか？

内倉理事▼これまでに既に所長や副所長が述べられていることと同じような内容になるかと思いますが、化血研は、従業員数がやがて約1300人にもなるうとしている中で、今後も社会の中でしっかりと存在意義を持ちながら永続していくことが勿論大切なんですが、その為には、いたずらに、あれもこれもと手広く拡大追求するのではなく、自らの得意分野が何であるかよく認識し、絞り込み、その得意分野では常に一流を目指していく集団でなければなりません。その絞り込みの厳しさと集中こそが、これからの化血研の将来を左右するし、それによって、化血研が国内はもとより、世界でも通用するレベルの一流中堅企業を目指すことになると思います。

事業の観点から言えば、血漿分画製剤、人体用ワクチン、動物用ワクチンの3分野が我々がこれまでに戦う場として選んできた事業分野ですが、それぞれの分野で、国内では最低でも常に業界3位以内の地位を確保していくことが重要で、それが化血研としてのプライドであり、社会における存在意義にもつながっていくと思っています。

Q：化血研の従業員に望むことは？

内倉理事▼最近実施された企画部の調査によると、経営基本方針が改定されたことを知らないと言えた職員が結構いたり、あるいは若い人の中からは、化血研の将来像、方向性が見えないという声が聞こえたりすることがあります。

組織的には、経営基本方針、長期経営計画、中期経営計画、毎年の業務計画という形で目標や施策は明確にされているんですが、それらがきちんと適切に伝達されているのかどうか不安も感じます。私自身、意思の疎通や方針の共有化については、経営幹部としての努力不足を反省しますし、中堅管理職層には情報・意志の伝達努力を更に期待するところでもあります。何と言っても、一人一人の職員が化血研に対してもっと強い関心を持ち、知ろうとする努力、語ろうとする積極性がなければ本当の意味での風通しのよさ、意思の疎通にはならないと思います。つまり、各人が化血研を心底、大好きになってもらいたい。そして、「化血研は自分達が変わっていくのだ、支えていくのだ！」という夢と気概を持って欲しいんです。





## Executive Interview●



分画製剤事業に関わった、特に営業での私自身の経験を振り返ると、静注グロブリンが上市された時は全くのゼロからのスタートでしたので、成功もありましたが、ここでは一々言いませんが大失敗も数多くあり、大変な苦勞の時期があったわけです。それでも、常に「医家向け営業の基礎は自分たちが創っていくのだ！化血研は我々が支えていくのだ！」という想いで、試行錯誤の中、無我夢中でやってきたと思います。その結果が今日の分画製剤事業の姿にな

っているといます。このことは営業部門に限らず製造部門においても船津副所長はじめ、皆がそういう思いでやってこられたと思います。

最近では、人体用ワクチン事業が、技術部門と営業部門が一体となつて取り組む体制になつてきたと感じます。本事業に関わる人達が、「俺達が何とか化血研を変えていく！俺達が化血研を支えていくんだ！」という気概と夢を更に強く持つて、一丸となつて進んでいけば、近い将来に必ず業界トップになれると思っています。また、化血研が世界にも通用する研究所になつていけるのではないかと本当に期待しています。

この「俺達が！」という想いがことのほか大事だと感じるわけで、化血研の将来の姿とか、企業としての永続性などは、結局のところ上からの御仕着せじゃダメで、自分達が何をどうするのか、どう変えていくのかという想いと努力によつてのみ実現できるものだと思います。そのような想いを、特に若い人には強く持つて欲しいと感じます。

また、そうすることによつて、化血研は我々にとつて日々の働く場所であるわけですから、皆がやり甲斐を感じ、将来に夢が持て、かつ楽しく働ける職場であつて欲しいと思います。

文責・インタビュー●総務部総務課 村里憲一



# Executive Interview

エグゼグティブ・インタビュー

理事 田代 昭

Q…化血研をどのような研究所にしたいですか？

田代理事▼一般に、企業が存続・発展していくには、次の3つの要件が達成されなければならないと言われています。まずその第一は、「利益を上げる」ことであり、これを前提とした「従業員の幸福」を達成し、また、同時に「社会的責任の遂行」を実現していくことと言われています。今日の化血研は、多くの先輩方の並々ならぬ努力により築かれてきましたが、特に、昭和50年代における飛躍的な発展を遂げて以来、多少の紆余曲折を経ながらも、これら3つの要件はその時々、時代を反映して達成されてきたと思います。特に、ここ数年来、公益法人問題の議論を通して、医学・獣医学分野における研究開発および地域社会に対する貢献など、第三の要件に関連することを積極的に取り組んできています。

当所が、今後も堅実な発展を実現していくためには、第一の要件を達成していくことが絶対的に求められる訳であり、その中で最も重要なものは新製品開発であると思います。新製品開発は企業活動の原動力であると思います。従って、それに見合うだけの世界に通用する技術レベルを発展・維持し、それを駆使して一番を目指し、目標を達成していける集団にしていかなければならないと思います。しかし、新製品開発には長期間を要するため、第一の要件を着実に実現していくには、生産部門、営業部門およびその他の間接部門における生産性の向上が達成されなければならないのは勿論です。

当所は、常に独自のターゲットに向けた新製品開発を推進していくための高いレベルの技術集団としての活動が維持されるべきだと思います。当所の目的に沿った形で大学などとの共同研究活動も、最終的には新薬に繋げるとの確な目標と信念を持って積極的に展開していくべきだと思います。企業における基礎研究というのは、いわゆる探索研究であり、将来の新製品開発に結びつくシーズを求めるものであるので、一方ではこのような地道な基礎研究の積み上げも必要とな

ります。



また、外向けには、このような当所の活動を良く知ってもらうためにも、地域社会や業界あるいは国内外の活動にも参加していくことも大事なことと思われます。一方、内部に目を向けると、従業員も約1,300名という規模になり、各部門の業務も複雑多岐に亘るものになってきています。しかし、それぞれの部門の業務目標達成のために真面目に取り組む姿勢や家族的な雰囲気は伝統的に継承されていると思います。いろいろと述べてきましたが、当所が今後も長く存続・発展し、次の世代に引き継いでいくことが私達の責任であります。そして、当所は目標を達成していく技術集団というのが目指すイメージであり、従業員から「化血研で仕事ができて良かった」と思われるような企業であり続けたいと思います。

Q…化血研の従業員に望むことは、

田代理事▼私自身は、入所以来研究部門に所属し、新製品開発業務に長年携わってきました。この間、それぞれの目標を



## Executive Interview ●



達成するまでに多くの困難な課題に直面しながら、それをクリアしたときに喜びを感じ、また、それを励みとして次の課題に取り組むということを経て、それが新薬として上市されたとすれば何物にも代えがたいものであることを実感してきました。研究開発業務は、最終到達まで長期を要するため、多くの壁にぶつかり、全く進展を見ないこともあります。研究開発に限らず全ての業務も解決困難な問題を抱え込んだときの苦しみは、解決したときの喜びに完全に解消され、更に大きな力を与えてくれるものであると信じています。

従業員の皆さんに望むことは、楽な仕事というものは世の中には存在しないし、苦しいことが多過ぎるというのが現実ではありますが、それだけに「仕事を楽しく」やってみてほしいということです。そのためには、何といたっても「自分の仕事を愛することだ」と思います。若い世代の価値観は多様化しているようですが、あえて価値観を押しつけると、自分の仕事を大事にし、目標達成のため真面目に取り組み努力、結果に一喜一憂しながらも確実に前進していく実行力を身につけ、それを最大限に発揮してもらいたい。このようなことが、上司や同僚・後輩から信頼を得ることにつながるものと信じます。仕事は与えられるものではなく、与えられた業務を自ら拡大し展開していくものであり、自分のために仕事に打ち込み、頑張ることが自分を人間として築いていく原点ではないかと思っています。

もちろん、仕事を愛すると同時に、家族を大事にすること、趣味を持つことも大切な要素であると思います。趣味にしても中途半端では駄目で、没頭するくらい一生懸命やることが、本当の意味でリフレッシュすることであり、これがまた仕事に取り組み活力になるに違いないと思います。よく言われる「よく学び、よく遊べ」とは、シンプルだが本質的な部分に触れていると思います。

心の豊かさは、毎日の生活の中から生まれるものであり、常に仕事を楽しめるように自分のために努力し、目標達成のために責任と自信を持って取り組んで貰いたいと思います。それが、自らの達成感、幸福な心、ひいては化血研への貢献、家族の精神的・経済的な充足につながるものと思います。

文責・インタビュー ● 総務部総務課 村里憲一



# Executive Interview

エグゼクティブ・インタビュー

理事 杉本 紘一

Q：化血研をどのような研究所にしたいですか？

杉本理事▼企業は、ゴーイング・コンサーンと言われるようにまず、存続・発展することが第一です。そして、ステークホルダー（利害関係者）を意識した経営を行うことが必要です。まず、公益法人という点から考えると不特定多数の顧客を大事にしないといけません。一般大衆の公益に寄与するということです。また、当所は今年設立55周年を迎えますが、一度も解雇した事がないという事実にも示されるように雇用の確保をはかっていますし、これからも少数精鋭主義を貫いて雇用を守っていくことが重要です。そして、そのような中で公益法人である当所が存続・発展していくためには、利益を上げ内部留保を厚くするようにしなければなりません。

また、今日の化血研があるのは先輩方の努力の賜物であり、「水を飲むときは、井戸を掘った人のことを忘れてはならない」と言われるように先輩への感謝の念と謙虚さを忘れないようにしたいものです。そして、公正な分配と適度な処遇を堅持すべきです。

それから、21世紀に求められる企業像は、安全性や品質を第一に考える企業です。さらに、地球環境との共生もあげられます。当所も来年度にISO14001の認証取得を目指しています。環境に取り組むことは、短期的にはコストアップになるかもしれませんが、長期的に見れば企業リスクとしてマイナスになることはないでしょう。以上述べたようなことが、化血研がめざすべきものだと思います。



Q：化血研の従業員に望むことは？

杉本理事▼まず、企業が存続していくためには、経営資源である人・物・設備・情報を投入し、それ以上のアウトプットがなくてはなりません。つまり、人について考えてみると、労働分配率が現在50%であることから従業員一人が年収の倍以上は稼ぎ出さなくてはいいけない計算になります。その他、物や設備や情報といった経営資源についても、投入した以上のものを産出しなくてはなりません。

先ほど品質重視ということを言いましたが、決められたものを守っていくというモラルハザードの点からみても、公益企業としてより高い観点から守っていくべきです。これまで野中先生や酒匂先生が経営方針の重点課題として取り上げられていたものを現在の経営方針でも踏襲しています。コンプライアンス（順法精神）として守るべきもの



## Executive Interview●



として独占禁止法やGMP、公務員の行動規範たる公務員倫理法といったものがあげられます。これらは、我々が行動の判断基準として身につけておくべきものでしょう。また、コストパフォーマンスを高めるには生涯学習が必要となりますが、それには企業のバックアップだけでなく、自助努力が大事です。私が常々言っています(新人研修や「いしがき」で紹介している)「三学戒」(佐藤一斎「言志晩録」)が必要かと思えます。

三学戒  
少而学則壯而有為  
壯而学則老而不衰  
老而学則死而不朽

これは、次のような意味です。「若い頃学んだ事は、大人になっても役に立つし、中年になつて学んだ事は老後になつても知識欲は減退することはない。そして、化血研(職場)をリタイアした後も学べば、死んだ後実績として残る」というものです。企業に勤めている時は、どうしても実務を中心に学ぶこととなりますが、80年という長い人生を生きて行く上では、家族や社会への貢献ということを考えなくてはなりません。これは、キャリア開発という面から、厄入り対象者に勉強会を行っていますが、いずれも自助努力すべきものです。

皆さんには、このようなことに心がけてもらいたいと思っています。

文責・インタビュー●総務部総務課 村里憲一



21世紀はじまりの年は、ISO14001認証取得、待望のNS棟の竣工など、内外からの評価や期待が高まる更なる努力が求められる年でした。

# 2001

平成13年

## Executive Interview

エグゼグティブ・インタビュー

理事 岡 徹也

Q…化血研をどのような研究所にしたいですか？

岡理事▼今の従業員の数からすると中小企業と言う言葉はふさわしくない大きさになりつつありますが、中身としては、山椒は小粒でもびりりと辛い。そう言うキャラクターを持った企業が理想ではないかと思っています。

従業員の数と言う大きさを企業を測るのではなく、いろんな方面で評価される実力、何かきらりと光るものを持っていることです。

例えば、技術的には共同開発とか、或いは販社からのアプローチとか、いろんな意味で評価してもらえようような企業ですね。ただ図体だけ大きくなると言う企業は必ずしも好ましいものではありません。

それが歴代の所長も言われてきたし、現在の所長も言われている特化した分野で力を発揮すると言う言葉に繋がります。

Q…企画部の立場からは如何でしょうか？

岡理事▼企画部の責任者としては企画部が企画部らしくありたい。これ一つです。大別すると企画部は、経営企画を進める部署であり、所長と常務理事の秘書業務、財団のあり方をチェックする監査業務及び所内外への広報業務を遂行する部署です。そう言う仕事を十分やれるようになれば、当然、化血研はその性格が出てくるようになるのではないのでしょうか。

例えば経営企画と言う考え方は、寄付行為、経営基本方針、中期経営計画などの脈々と流れる経営の哲学、戦略と言うものを本当に全所一丸となって遂行して行くようになっていくのか、所長が言われたことや部長が言ったことが従業員全てに亘って浸透して行っているのかをフォローすることです。経営基本方針、中期経営計画、年度業務計画と



して文書化されているはずなんだけれども、その文書化されたものが真の目標や真の計画としてそれぞれの人が実行しようとしているのか、或いはその実行した結果が当初の目的に達しているのかを客観的に評価し、修正し、新たな計画を作り上げるなどとして展開していきたい。

そう言うことができるようになると自ずから企業は自分の力で展開できるようになってくる、このことが企画部が経営企画的な仕事をすると言う本当の狙いだと思います。企画部がそうならば化血研そのものが上から下までの思想やベクトルの統一ができるのです。

そんな企業になれば数少ないスタッフでも、数少ない従業員でも大きな力を発揮できるようになるのではないかと思います。

それから、広報と言う立場から言いますと、所長も言われている通り化血研を世間に知らしめることです。

これは単なる地場企業の中でアピールするだけでなく、広く化血研の技術、ノウハウや実績を公表することによって、第三者から正しく評価してもらうことです。これが従業員のモラルアップにも繋がると、外部からの、例えば共同研究などで我々を逆にアシストしてくれるよう



## Executive Interview ●



な第三者の出現というのも期待できるのではないかと思います。ですから最初の質問と重複しますが、これらのことを企画部がやって行くことによって化血研そのものの力を高めて行きたいと思っています。

Q…化血研の従業員に望むことは、

岡理事▼まあいろいろあるんですけど、一つは真摯な生き方、真摯であって欲しい。これは人間として最低必要な

生きざまだと思います。

「巨人軍の選手は紳士たれ」と故正力オーナーが昔言いましたけれど、「化血研の従業員は真摯たれ」(紳士とは違うんだけれども)と望みます。

もう一つは積極的であって欲しい。組織が大きくなれば分業と協業のうち分業と言う面だけが大きくクローズアップされてくるきらいがあります。変に縦割りと言う考え方を意識しないで欲しい。

それはどういうことかと言うと、分業と言うのはそこまではあなたの絶対責任であって、その枠を超えたら仕事をしてはいけないということではないのです。

分業と分業のすきまを積極的の良い方向でお互いが埋め合うということが必要です。組織は図体が大きくなってくる、それはどこぞの課の仕事ですからとか、うちの部の責任ではありませんとか非常に悪い意味での縦割りになりがちです。責任問題は分業であるけれども、それを超える所は積極的な協業、誰もしないのならば自分がする、そういう意味での積極性ですね。お互いのスキマを補充しあうという心を大事にして欲しい。

これからは組織も大きくなって顔も名前もよく知らない人たちが増えてくれば、益々スキマが埋まり難くなる心配が出てきます。

また、自分で自分の仕事の範囲を決めてしまわないで頂きたい。やらないという前提で物事を見ないで頂きたい。自分の限界・力量を最初から決めないで欲しいと思いますね。やればやっただけ人間は経験が積み重なり、その分能力は高まり成長していくはずで、自分で仕事の範囲を決めればそれだけの器でしかなくなります。そうならないようにして欲しいと思います。

文責・インタビュー・写真●総務部総務課 猶野輝彦



# Executive Interview

エグゼグティブ・インタビュー

理事 藤川 英雄

Q…化血研をどのような研究所にしたいですか？

藤川理事▼この設問に対しては前にいろんな理事の方々が既に言っておられることと基本的には同じと思います。化血研は創立以来、生物学的製剤に特化してきました、今後もこの得意分野でチャレンジして行くべきではないかという風に考えております。これまでの歴史が示しているように、人・動物共に常に何らかの病氣と闘って来ています。将来も病氣の形態そのものは多少変わってくるとしても、人間・動物共に生きている限り今後と同じではないかと思っています。

そういうところで、やはり生物学的製剤に特化すべきだと言っているのです。今後も化血研は世の中のニーズに応えるような新製品を常に開発、製造して行くと言うことが大事ではないかと思っています。

それが化血研の財団としての使命ではないかという風に思っています。

今後、100周年を迎える日も存続発展し続けているような研究所にしたいものだと思います。そのためにも生物学的製剤業界では常にトップクラスの高い技術力を持つということが必要だと思っています。

これまでも阿蘇シンポ、阿蘇インターナショナルミーティング、家畜衛生講習会等開催して公益事業として世の中にも貢献してそれが世の中にも認められているわけですが、更に私共に関連する大きな学会等も主催できるようになればと思っています。

その為には常に利益を確保し経営的に安定していなければなりません。日本に化血研ありといわれるような研究所にしたいと言うことです。

化血研は以上述べてきた事を確実にやっていけば、十分100周年を迎える事ができるようになって行くのではないかと思います。

今年55周年、あと45年と言うと今いる人は新人の方も含めていなくなっているんですね。次世代につなぐためには、私共の責

任はもちろんですが、現在在籍している化血研職員全員の双肩にかかっていると思います。

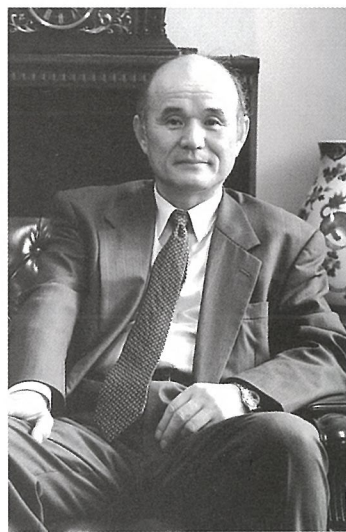
Q…第二製造部の長としてのお立場からは如何ですか？

藤川理事▼中計とかで十分述べているつもりですが、基本的には動物も人間と同じように病氣との闘いなんですね。一つの病氣が終わればもう次がでくるといふ事の繰り返しで、鶏、豚、牛もまだまだ困っている感染症は沢山あります。

感染症の場合、病氣の流行を防ぐためには、感染源及び感染経路を断つか、宿主に免疫を獲得させる等の方法がありますが、産業動物の場合、経済性が問われますから、ワクチン接種によって免疫を獲得させる方法が最も安上がりなんです。

動生剤部門は、先ずこれら世の中が求めているワクチンを確実に上市して行く事が第一だと考えております。ただ、現在残っている未開発のワクチンは難しい問題を抱えているものばかりで大変ですね。

また、先程も言いましたように、私共は主に産業動物を対象にしていますから、品質はもちろん、より安く、利便性の良いワクチンが望まれています。特にここ2、3年外資系の企業が低価格をキャッチフレーズに市場に参入していますから、今後は品





## Executive Interview ●



質と共に世界に通用する価格も念頭に開発しなければなりません。ここ数年が勝負だと思っていますので、動生剤関係者全員で頑張りたいと思っています。幸い、若い人もこれまでの技術に新しい技術を取り入れる等、実力もついてきましたので、若い力に期待しているところです。

Q…化血研の従業員に望むことは、

藤川理事 ▼現在、化血研には1300人ほどいらっしゃるわけ

ですけれども、そこでお願したい事は、全員一人一人が自分の仕事を大事にして欲しいという事。そのそれぞれの仕事の中で常に高い目標を掲げて仕事をして欲しいと言う事です。私が若い頃、「自分は会社の歯車の一つにすぎない」というような人がいたんですが、しかし、歯車が一つでも狂えば機械は止まってしまいうわけですし、会社も同じではないかと思っています。仕事はそれぞれ大事なわけですから、大事な仕事をそれぞれの人が前向きに仕事をするという事が研究所全体の総合力を高めることに繋がると思います。

もう一つは、これは新人が配属されたときにいつも新人の連中に言っている事なんですけれども、「1日も早く自分は化血研でこう言う事をやり遂げたんだ」というような達成感のある仕事を先ずやり遂げる、その事が自分だけの満足感でなくて、人も評価してくれるような、そういう仕事を先ずやり遂げる」と言っています。それから、この事については自分が第一人者なんだ、この事に関しては誰にも負けないというものを自分に身につけてもらいたいと言っています。この二つが身につけば自信というものができると思うんですね。その自信というものが更に自分を大きくして、仕事の範囲も広げることができると思います。そして、化血研ばかりでなく、所外の人からも評価されるようになれば言うことなしと思っています。

以上のことをよく新人が入って来たときに言っております。

最後に、立派な仕事をするには、健全な精神と肉体が必要だと思っていますね。言い尽くされている言葉ですけど、やはり一番大事だと思っております。それから、何事にも誠実さをモットーに頑張らしましょう。以上、あたりまえのことばかりですが従業員の方皆さんにお願いしたいと思っています。

文責・インタビュー：写真 ● 総務部総務課 猶野輝彦



# Executive Interview

エグゼクティブ・インタビュー

理事 宮本 誠二



5月24日付で理事に就任された宮本理事にインタビューいたしました。

Q・・・化血研をどのような研究所にしたいですか？

宮本理事▼ひとことといえば、「化血研の特性を生かした存在意義のある企業」ということです。化血研が得意とする特化した分野に集中して、この分野では世界の一流とし

て通用する集団になるということです。

世界の動きとして企業は巨大化していますが、化血研は小さな体でそうした巨大企業と対峙していかなければなりません。そのためには、特化した領域で化血研の特性を強みとして発揮していくことです。小回りがきき機動性が高いこと、総力を結集しやすいこと、組織というルールの範疇ではあるが自由度が高いこと等、大企業に勝るメリットを生かして、特化した領域では無視できない存在であること、更にはリードしていく存在を目指していきたいと思っています。

それは単なる夢の話ではなく、現実のこととして皆が一丸となって頑張っていけばやっていけるし、その自信と誇りを持って、それに相応しい力をつけていかなければならないと思っています。しかし、その一方で、力を過信して調子に乗ると足元をすくわれて転んでしまうリスクも大きくなっていると言えます。

化血研の一番の特性は、真面目であるということです。化血研は真面目な企業として信頼されています。この「真面目で信頼できる」という化血研の本質を決して忘れることなく、世界に通用する力をつけていき、地味で真面目な



## Executive Interview



よう。

思わぬ力に自分でも驚くことがあるでしょう。

化血研は、自分がやる気になれば、アクティブにやっつけていける恵まれた環境にあると思います。困難なことにぶつかった時も、それは自分の力を思う存分に発揮する良い機会だと捉えることができます。考え抜き、それを実現していくことで、自分の中に潜んでいた

中堅企業の化血研が、社会になくってはならない存在感を持った企業として存続していくことが、我々の目指すところと考えます。

Q：化血研の従業員に望むことは？

宮本理事 ▼まず第一には、責任を持って事に当たるといことです。「責任」という言葉は、何事か起こった場合に「責任を取る」ということでも使われますが、そうした事後のネガティブイメージよりも、むしろ事を成すに当って「責任を持つ」と、言い換えれば、自分が主役となつて成し遂げるという気概を持ったプラス志向で捉えるべきことだと思います。自分が責任を持つて行ったことであれば、

万一それが思わぬ事態となつた場合には、潔く責任を取ることにも悔いはないと思います。

化血研は、自分がやる気になれば、

我々は科学者であり、企業人であり、社会人です。科学的な見識や探究心、有用なものを実用化し供給していく社会への貢献、そして他者への思いやりと愛情、こうしたことが一体となつた行動が求められます。これらは相反することではなく、それぞれの要素が共鳴して高めあっていくこととなります。

人にはそれぞれ個性があります。完璧な人もいないし、駄目なばかりの人もいません。そして、何から何まで自分と同じという人もいません。そうしたそれぞれの個性を持った人達が集まつて、互いに強いところを伸ばし、弱いところを補完していくことで、集団としての強い力が発揮でき、世の中に貢献していくことができます。化血研という一つの集団の中で、各人および各部署が協力し合っていくことが重要なことと考えます。

文責：インタビュー ● いしがき編集委員会事務局





## 部長インタビュー

Series  
2

## 試作研究部 部長

## 溝上 寛

HIROSHI MIZOKAMI

ISHIGAKI 2

どのような部署にしたいですか？

大きく二つの目標を持っています。

第一に「バイオ医薬品製造部門」を設立すること。これは、試作研究部の発足時に理事会の総意として理事長から示された目標でもあります。

試作研究部では、現在、酵母由来製品2品目、大腸菌由来製品2品目、細胞由来製品3品目の開発を進行中です。いまのところ化血研の収益に貢献しているものはビームゲンですが、これらの開発品をできるだけ早く上市し、組換えアルブミンを主軸とした製造部門を立ち上げ、化血研を支える「第四の柱」にしていきたいと考えています。

ただ「バイオ医薬品」はいままで化血研が行ってきたワクチンや血液製剤にないハードルがあり、また行政側からの種々の要求に適確に対応していかなければならず、その道は決して安易なものではな

いと考えています。

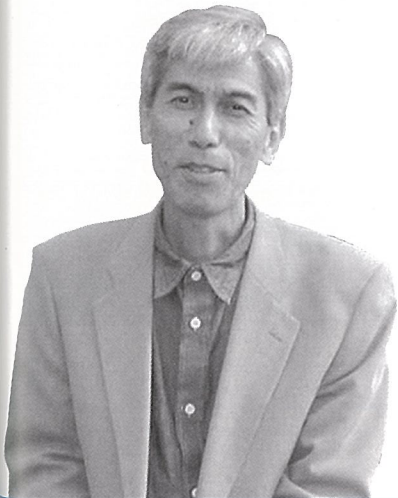
さらに、将来的には「バイオ医薬品」はワクチンや血液製剤以外の分野にもその足場を広げる可能性を秘めており、化血研の特色ある従来技術力と融合させて、新たな得意分野の開拓につながればと思っています。

試作研究部は国内外の医薬品企業と共同研究・開発を多数行っており、この点からもここから新たな化血研の医薬品業界での立場・地位を確立する種があるように思います。現在行っている国内外企業との共同開発は「ビームゲン」の開発成功がその種となり大きく育ってきたもので、化血研が非常に高い「バイオ技術」をもっていると国内外に知らしめるための大きな力になってきたと思います。現在開発しているテーマを成功させることによつて、次なる新たな展開が生まれ、更なる発展が望めるのではと考えています。

第二に、いわゆる文献に載らない部分

の「実学」としての技術情報を集積し、その技術を化血研の他部門でも応用できる技術情報とする使命が試作研究部にあると考えています。

試作研究部が担当している開発業務は、基礎から臨床開発にわたる開発ステージの中間段階にあつて、基礎研究での成果を医薬品として仕上げる重要な部分の一翼を担っています。この重要性を認識す







るとともに、担当専門部署として今以上に努力して、一歩進んだ実力を蓄えた職場として育てたいと考えています。

部署の方に望む事は何ですか？

試作研究部のメンバーには大きく二つのことを望んでいます。

一つは、試作研究部が化血研の将来に対して「翼を担っているという誇りと責任感を持って仕事をしてほしい」ということです。このことは私は常日頃から試作研究部のメンバーに伝えるよう努力しています。

います。特に、外部との共同開発が主要業務となっている現状では、他の企業と同等にしかも信用を得られる状態で業務を行うためには並大抵の努力では対応できません。化血研は財団法人という立場ですが、この共同開発では財団法人の論理が通用しないことも多々あり、この点を克服していく必要があると考えています。ただし、株式会社にはない財団法人としての強みもありますのでこの辺のバランスを取りながら、世界に通用する仕事を着実にこなしていってほしいと思います。

試作研究部が取組んでいる「バイオ医薬品」の分野は、世界を相手にしなければなりません。これは逆に世界に向かつて出て行くことができます。試作研究部のメンバーには目先の改良や向上だけにとらわれず、より大きな目標を持って努力していただきたいと思っています。

新製品開発においては「発明」は大切ですが、突出した発明だけではよい「商品」とはなりません。日本の工業製品の良さは高い信頼性と耐久性に支えられていると思います。医薬品の開発世

界へ立ち向かうにも同様であって、「完璧にチャレンジする若々しい気概」と「着実な技術力向上を積み重ねるゆとり」を兼ね備えてほしいと思います。

二つ目は、化血研及び社会の中で業務を行っているという認識を常に持ちつづけていただきたいということです。新しい仕事や責任のある仕事を担っているとどうしても前だけを見ていることがあります。しかし、私達が最先端の仕事やきちんとした仕事ができるのはそれを支えてくれる人達、現在の化血研を支える仕事をしていたらいてる人達がいるからこそできることであるという気持ちを持ち、自分たちがこれだけ大きな仕事ができることに對して他の人達に感謝する心を常に持ちつづけていただきたいと考えています。人は一人であることは限られています。常に自分の立場を見据えて慢心しないことは、安定的に発展しつづけるためにも大切なことではないかと思っています。

最後に、健康に気をつけて、支えてくれる家族への感謝を忘れずに仕事に頑張っていたきたいとおもいます。

インタビュー：…研究管理課 村上智子

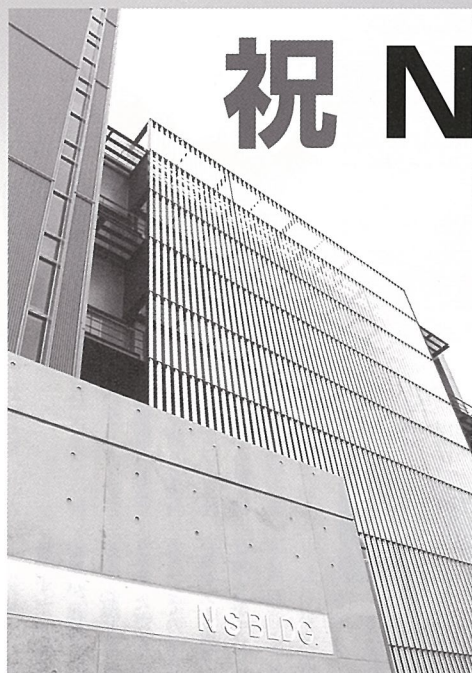


化血研の前身である実験医学研究所が解散した年です。また、インフルエンザが猛威を振るい、ワクチン製造棟(F棟)が竣工されるなど、社会から益々の躍進が期待されました。

# 2002

平成14年

No.345(1月号)より



## 祝 NS棟 竣工

平成13年12月10日大安吉日。待望のNS棟が清水本所に竣工した。足掛け15ヶ月の歳月を要した新製造棟が、いよいよ新たに稼働する。



### 祝 竣工 NS棟新築工事



NS棟の定礎取付の様様。(定礎石の中にはその日の新聞と当所のお力ネを入れて封印するのが習わしなんですって。知ってました?)





NS棟は当所の主力製剤である血液製剤の生産体制の充実を目指す事をその使命として誕生した。鉄骨4階建て(M2階・M3階を含めると正式には地上6階建て、延べ床面積は約一万三千四百平方メートル。主な製造品目はボル関連・生体組織接着剤)やMC9・CPAPCなどの血液製剤である。既に一部の設備では試運転を開始しており、現在は3階の精製プラントを急ピッチで工事中、1階の分画プラントも設計が順調に進捗している。なお本稼働は一部を除いて、平成14年5月からとなる。

#### NS棟のコンセプトは

- ①製造区域のクリーン性などの面で医薬品製造品質管理基準(GMP)への対応を強化。
- ②原料プラズマを保管するマイナス25℃の立体凍結自動倉庫(およそ現状の3倍量を保管可能)を併設
- ③分画プラントの処理能力アップ
- ④充填・小分け能力のアップ(充填ライン2ライン・凍乾機3台を新たに設置。)
- ⑤精製プラント設備の拡充(製造室の専用化を図り不活化前と不活化後のエリアを区切り、明確な区分けを実現)
- ⑥将来の新製品製造にも対応可能なように将来エリアスペースを確保
- ⑦生産情報管理システムの充実
- ⑧その他製造付帯設備(CIP設備・洗浄室・待機室・洗濯室など)についても機能性・利便性に配慮
- ⑨作業者が気持ちよく作業できるよう快適さも追求

この他にも人・物の動線や省エネ対策など、多岐に渡る細かな配慮とこだわり、多くの人たちの情熱がそそぎ込まれている。構想は3年以上前に遡り、工期は約15ヶ月、投資額はおよそ75億円。実に多くの関係者の英知が集結した結果、NS棟は医薬品工場の最先端を行く製造棟として誕生した。今後は血液製剤の将来を担う上で、核となる製造棟である。

12月10日に執り行われた竣工式では、朝からあいにくの空模様であったが、各界から多数のご来賓にお越し頂き、新製造棟竣工の祝辞を頂戴した。日頃お世話になっている県健康福祉部の先生方を筆頭に、NS棟の設計・施工に携わっていただいた業者各位、化血研関係者を含め総勢80名余りの関係者立会のもと、厳かな中にも華やかな式典となった。式典に先立ち、お披露目を兼ねて来賓各位にはNS棟をご見

学いただいたき、続く神事は展望のよい4階の記録室で執り行われた。神事は滞りなく進み、神酒拝戴では工事関係者全員が無事に竣工した喜びと感謝の念を胸に美酒を口に運んだ。次いで場所を厚生会館ふれあいに移し、竣工記念パーティーが行われた。内野所長か

#### NS棟の主な機能

4F	●記録室・コンピューター室 ●将来スペース ●凍結自動倉庫
3F	●精製エリア(不活化前) ●精製エリア(不活化後) ●凍結自動倉庫
M3F	●CIP室・恒温室 ●洗濯室・会議室 ●凍結自動倉庫
2F	●充填・小分けエリア ●凍結自動倉庫
M2F	●S棟NS棟専用下足室 ●会議室 ●凍結自動倉庫
1F	●検査エリア ●分画エリア ●凍結自動倉庫

らの関係各位へのお礼の言葉に始まり、行政機関を代表して県健康福祉部次長藤本先生に祝辞を頂戴した。また所から施工業者殿に感謝状と記念品の贈呈が行われ、本田副所長ご発声のもと乾杯となった。祝宴は終始和やかな雰囲気の中、関係者の顔には満足いく仕事ができたと充実感もあつてか安堵の笑顔が見られた。祝宴は船津副所長の万歳三唱で幕を閉じた。

「…NS棟のスムーズな稼働、そしてNS棟にご関係いただいた実にあくさんの方々の健康と益々のご発展を祈願いたしまして…万歳!!」  
化血研の新たな歴史を刻む棟の門出にふさわしい、晴れやかな式典となった。

(文責：生産技術部生産技術課 沖村由紀)



# 生物工学会論文賞 受賞報告



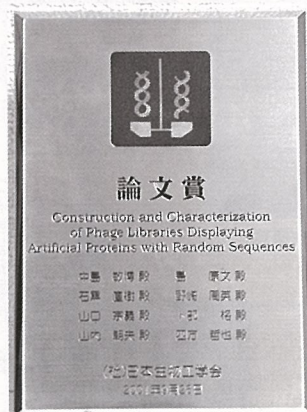
この度、中島敏博氏(1研-1・主任部員)と、野崎周英室長(試作部・主任部員)が、  
2001年度の日本生物工学会の論文賞を受賞されました。

受賞対象は、大阪大学との共同研究内容の一部を  
Journal of Bioscience and Bioengineering誌に報告された論文です。

Construction and Characterization of Phage Libraries Displaying Artificial Proteins with Random Sequences  
(Dept.Biotechnol,Grad.Sch.Eng.,Osaka Univ.;Chemo-Sero-Therapeutic Res.Inst.;PRESTO,JST;Dept.Pure and Appl.Sci.,Univ.of Tokyo)

Toshihiro Nakashima, Naoki Ishiguro, Muneyoshi Yamaguchi,  
Asao Yamauchi, Yasufumi Shima, Chikateru Nozaki, Itaru Urabe, and Tetsuya Yomo

賞状及び記念品の盾(写真)が贈呈されました。



なお、日本生物工学会は来年設立80周年を迎える醸造・発酵工学、バイオテクノロジーといった日本の生物学、  
バイオテクノロジーを支える基幹学会の一つです。

今年で論文賞は第9回になり、日本生物工学会が発行するJournal of Bioscience and Bioengineering等に発表された論文を対象に、  
選考委員会にて候補24論文が選択され、そこから5題が投票により選択されたそうです。

同時に受賞されたのは以下の方々です。

第9回日本生物工学会論文賞

●本田 淳氏 他(アベンティス ファーマー) ●酒井 康行氏 他(東京大・生産技術研究所)



✈ ✈ ✈ ✈ ✈ いしがき編集員が行く ✈ ✈ ✈ ✈ ✈

## 化血研 東京事務所・営業所



地下鉄白金台駅がすぐ隣り。手前は目黒通り。後ろにそびえる煉瓦造りの建物は東大医科研。

化血研には出先機関がいくつかあります。阿蘇支所と配送センターは新人研修中に見学させていただきましたが、その他県外の営業所等は普段あまり馴染みもなく、どのような所か、想像もつかない…という方も多いと思います。という訳で、いしがき編集委員が実際に足を運び、取材してまいりました。第1弾は、化血研東京事務所・営業所です。

### メンバー紹介

◎東京事務所・総務部東京業務課

尾本課長

那須・神代(宿泊所)

◎東京営業所・第一営業部東京営業所

古田所長

角田・池辺・猪島・佐々木・小谷・大倉・

中川(動物ワクチン販売担当)・広田主

任部員(人体及び薬剤の管理薬剤師)・

高橋(病鑑)・小原(事務)・島根(配送)・

佐藤と村越(派遣社員)

◎富士顧問・家氏顧問(営業理事付き)

◎総勢19名。





いしがき編集員が行く

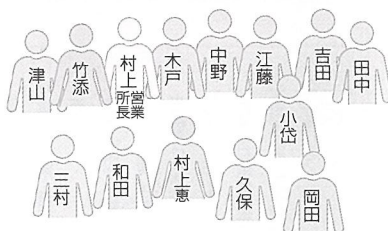
# 自販の羅針盤として

今回は、(財)化血研 福岡営業所の紹介です。



## 第一営業部福岡営業所 メンバー

- 村上営業所長  
 ◎人体用ワクチングループ／津山・木戸  
 ◎福岡地区担当／吉田・田中・久保・和田  
 ◎北九州地区担当／小岱・江藤・三村  
 ◎久留米・筑後地区担当／中野智・岡田  
 ◎管理薬剤師・事務担当／竹添  
 ◎事務担当／村上恵・中野里  
 (第一営業部ワクチン推進課／岡本)





✈ ✈ ✈ ✈ ✈ いしがき編集員が行く ✈ ✈ ✈ ✈ ✈

## 大阪営業所

第3弾は、大阪営業所です。

第2営業部 平井営業所長・高澤さん・中村さん・森さん、管理薬剤師伊藤さん・事務総括平山さんに取材とインタビューにご協力いただきました。



大阪営業所メンバー



タイガースファンに改宗された御三方  
左から中村氏・高澤氏・森氏

伊藤さん・平山さん



新製造棟(F棟)竣工式 平成14年12月4日

# インフルエンザワクチン 増産・安定供給のために

玉串奉奠



神酒拝戴



F棟全景



内野理事長挨拶



## F棟概要

- 1、目的
  - ① インフルエンザワクチン増産への対応
  - ② GMP対応工場
  - ③ 生産設備の自動化・省力化による生産性向上
  - ④ 将来スペースの確保
- 2、建築概要
  - ◎ 建築場所 熊本市大窪1丁目6番1号
  - ◎ 化血研敷地内
  - ◎ 構造 鉄骨造りイソバンド 地上3階建
  - ◎ 延床面積 3,087㎡
  - ◎ 建築面積 1,135㎡
  - ◎ 投資額 約21億円(建築及設備器込)
  - ◎ スケジュール
- 3、スケジュール
  - ◎ 建屋建設
    - 着工 平成14年3月
    - 竣工 平成14年11月末
    - 生産設備 平成15年3月稼働
- 4、各階機能
  - ◎ 1階
    - 原料受入／洗浄・滅菌／精製 エリア
    - (発育鶏卵受入、洗浄・滅菌作業及び感
    - 染漿尿液からのウィルス精製、エーテル処
    - 理・不活化 等)
  - ◎ 2階 接種 培養、採液 エリア
  - (発育鶏卵へのウィルス接種、培養及び感
  - 染漿尿液採取 等)
  - ◎ 3階 原液調製／管理／拡張 エリア
  - (不活化原液の混合・保管、GMP管理文
  - 書、記録書作成・保管 等)

熊本日新聞 平成14年12月10日 火曜日 朝刊

## インフルエンザワクチン 化血研に新製造棟

化学及血清療法研究所(化血研)は、熊本市大窪の本所敷地内に建設していた新しいインフルエンザワクチン製造棟が完成したと発表した。来年三月稼働予定で、年間の生産能力はこれまでの約一・五倍に当たる約五百万本(本は「1ミリ」)となる。

鉄骨造り三階建て、総床面積約三千平方メートル。洗浄や培養、原液エリアなどを設けた。投資額は約二十億円。

六十五歳以上の高齢者がインフルエンザの予防接種をする際、自治体の一部費用を負担することなどを盛り込んだ改正予防接種法が昨年施行、高齢者を中心に今後の需要の伸びが見込めることから建設に踏み切った。

同ワクチンの本年度出荷分の生産は既に終わっており、生産実績は前年度の二百三十八万本を33%上回る三百十五万本に達した。

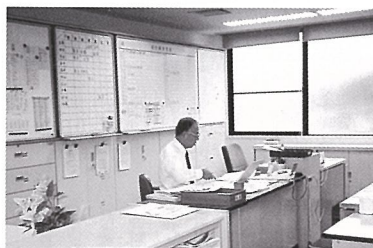




応接室にて  
インタビュー



メンバーの予定表



入口から見た  
職場風景



休憩室、また木の新しい香りが！

# いしがき編集員が行く

## 長崎で生まれた子供さんの10人中7人—8人は

今回は、長崎出張所にお邪魔しました。

正面玄関



5階建てマンションの2階。1階は駐車場。



第一営業部長崎出張所 メンバー

尾藤出張所長(兼務)  
石下合紀子  
林谷 哲雄  
尾崎 恒夫  
佐藤 環





2003

関連法人である熊本保健科学大学が開学した年です。所内報「いしがき」も熊日新聞社内報コンクールで、「熊日賞」を受賞しました。

No.357(1月号)より

2003年

初荷進発式

## 来年度三百億突破の決意を込めて

1月6日(月)午前10時より、快晴の下で本所玄関前にて新春恒例の「初荷進発式」が執り行われました。

内野所長により、本年及び来年度に向けての業績発展を祈念する挨拶で式は始まり、続いて内野所長、内倉常務理事によるテープカットに併せてシャンパンの栓が高らかに音をたてて宙を舞いました。その後内倉常務理事の売上増並びに来年度300億突破の決意を込めた乾杯の音頭により、九州産交運輸の初荷トラックは参列の皆様の祝福を受けシャンパンシャワーを浴びながら、ゆつくりと出発して行きました。

さて、本年もあと第4四半期を残すところとなりましたが、2002年度売上は第3四半期を終了した段階で計画比106%の234億円で推移しており、本年度末の見込みでも280億円を超える(前年度実績は275億円)売上高が予測されております。これも分画製剤ではベニロン、ポリヒール、アルプシンの主力製品の好調、人体用ワクチンではインフルエンザワクチン、YHBの増販、更に動物用ワクチンでは当初オイル7混の欠品等の問題もありましたが、鶏製剤、豚製剤共に好調を持続しております。

一方、2003年度は分画製剤ではアルプシンの増販、人体用ワクチンでは念願のプレフィルドシリンジ(日本脳炎、DPTワクチン)のスムーズな市場展開、動物用ワクチンでは今年度上市したオイル6、7混の更なるシェア拡大を狙っているものの、適正使用、競合他社の攻勢、低価格化等化血研を取り巻く環境は益々厳しい年となりそうです。また、化血研内部では改正薬事法に伴う表示関連の変更対応、ERP本格稼働等が同時期であり、全く予断を許されない状況であります。本年もこの様に難題が山積しておりますが、営業部門は化血研全部門各々の努力の集大成であります売上実績をより大きなものとして実現すべく、営業担当理事を筆頭に全員一丸となつて挑戦し、最善を尽くす所存であります。どうぞ更なるご支援とご協力をお願い致します。

最後になりましたが、当日は大変寒いく、多数のご参列を頂きました事に深く感謝申し上げます。本年も職員全員の努力を結集して、化血研事業計画の超過達成に向けて順調に事業が展開出来ます事を祈念致します。

(営業管理部 営業企画課 川上泰蔵)





## 七十六年の歴史に幕

平成十五年二月十日に化血研発生母体、財団法人 実験医学研究所（以下：実研）の解散式が行われ七十六年に亘る歴史に幕が降りました。

解散式では、実研酒匂所長（代表清算人）が、大正十五年十一月三十日設立後、七十六年間の歴史、解散へ至る経緯をお話され、平成十四年九月四日に解散、十二月二十四日に清算が無事終了されたことを解散の辞で述べられました。

その後、内野所長、野中実研前所長が、「一つの法人が姿を消すことは非常に残念ではあるが、その精神は、脈々と化血研に引き継がれている、発展的解散と捉えたい旨」のご挨拶がありました。

引続き、杉本化血研常務理事の乾杯のご発声。懇親会では、実医にゆかりのある出席の方々が思い出話の花を咲かせておられました。

（実医については、化血研四十年史にも記載されています。）

文責：総務課 猶野 輝彦



解散の辞を述べられる  
酒匂実研所長



内野所長のご挨拶



野中実研前所長のご挨拶



清算のご指導をいただいた  
井上税理士



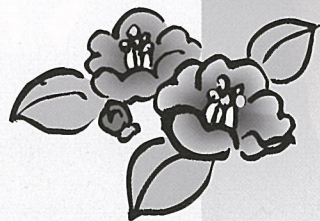
実験医学研究所 全景



杉本常務理事の乾杯のご発声



平成15年1月10日(金)午前11時  
酒匂実研所長 新実研総務部長のお二人で  
看板がはずされました。





## 部長インタビュー

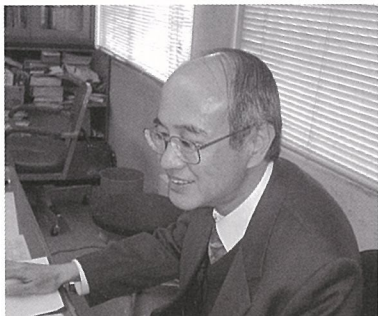
HIROMICHI MIZUNO

経理部 部長

「100の価値を  
150に増やす役割を」

水野 弘道

どのような部署にしたいですか？



仕事は極めて稀です。スタッフ部門の使命は、現場の皆様が価値を創造し、生産性を向上するのを支援することです。経理部に支援してもらったから100しかなかったはずの価値が150に増えたというような役割を果たすこと、言い換えれば、現場の皆様が本来の業務に専念し、その効率を向上させるお手伝いをしたいと思っています。

現在、経理部門が事務局となってERPの導入を推進していますが、この導入目的も同じです。ERPは研

究開発部門や薬事部門は管理対象外ですが、製造、生産管理、購買、営業部門等の活動はERP上で連動し、全てが経理システムに直結してリアルタイムで経営成績の把握が可能です。

ERPという道具によって、各部門間の重複した作業、管理間接的な作業を減らし、各部門の作業を全体最適化することによって、各部門が最も効率的な形で

経理部というのは全所的なスタッフ

部門です。スタッフ部門は製造も販売もしないので、自ら価値を生むような





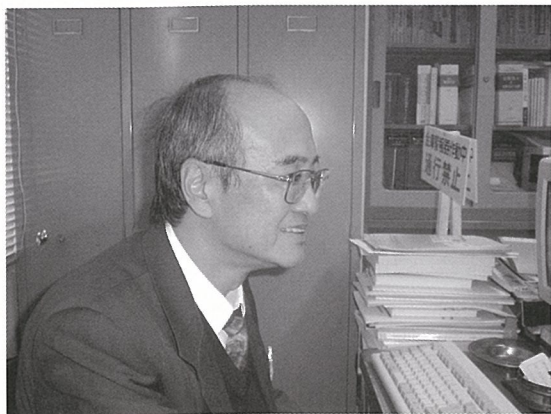
本業に専念できる体制を構築したいと考えています。

「管理」や「事務作業」そのものは価値を生みません。価値を生むための

管理や事務は必要ですが、価値の増大に貢献しないような管理や事務は

なくす努力することが生産性向上  
第二は、どのようなことにも尻込みをせず、チャレンジ精神を持つことです。

部署の方に望む事は何ですか？



人間は未経験のことに

消極的になりがちですが、未経験のことにチャレンジしながら人は成長してきたのです。しばらく前に「チーズはどこへ行った」という本がベストセラーになり、読まれた方も多いと思います。ビジネス童話というジャンルに分類されるそうですが、ビ

ジネスパークンに限らず、創造的に生きていることの重要性をわかり易く説明しています。正確な記述は忘れましたが「未知のことに足を踏み入れる不安よりも未知のことから逃げていく不安の方が大きい」という内容の記述が印象的でした。

第二は、世の中の役に立つ仕事をす

るということです。最近、企業倫理を疑うような不祥事が相次いで報道されていますが、このような事件が起これるのは仕事の目的を履き違えているからだと思います。自分だけ、あるいは会社だけ儲かればいいのではなく、自分の仕事が会社の発展につながり、社会の発展にも貢献しなければなりません。そう考えれば、絶対に不正な仕事はできないのではないのでしょうか。アイデアと努力で正々堂々と公正な

競争をする。戦後最大の不況から脱出できないでいる日本を再生する鍵も、この原点に立ち返ることにあるような気がします。

インタビュアー

製剤部 製剤二課 岡崎加奈子



部長インタビューシリーズは、今回で終了となります。4月号から新たに各課紹介の掲載を企画しております。



熊本保健科学大学 開学

## 熊本保健科学大学

いよいよ誕生!!

2003年  
4月

大学全景

熊本保健科学大学設置認可が平成14年12月19日。新校舎の竣工式が平成15年1月14日。教育研究用機器備品の搬入が本格化し、新校舎への移転完了が3月9日。新校舎での業務開始が3月10日。3月14日には銀杏学園短期大学の卒業式をアリーナで挙行し、4月1日には招聘教職員を迎えて辞令交付が行われました。いよいよ熊本保健科学大学の新たな旅立ちの時期を迎えました。

本学は、1学部2学科で構成され、保健科学部に衛生技術学科(定員100名・臨床検査技師、衛生検査技師、食品衛生管理者資格取得)。看護学科(定員95名・看護師・保健師受験資格取得)を有しています。

入学試験は1月より4回にわたり実施され、両科合わせた入学定員195名に対し、志願者は985名を数え、259名が合格しました。少子化の時代、大学間競争も激化している中にあつては、恵まれたスタートを切ることができました。

大学の経営安定を図るためには、一定規模以上の志願率、入学者の確保が絶対条件です。そのためには、高

校生の入学願望を喚起する付加価値を如何に提供できるかが重要です。教職員の教育力の向上と、就職率の向上を目指した職域拡大への努力が求められます。

一方で、本学の経営母体が(財)化血研であるとの認識が徐々に定着しつつあります。(財)化血研の知識集約企業として、医薬品関連企業としての高評価は、志願状況に好影響を与えています。

新校舎は、直径13.2メートルの円形平屋建てで、全面バリアフリーの設計です。文部科学省の実地調査、高校生対象のオープンガイダンスでも「こんな大学見たことない」と新鮮な驚きを持つて受け止められました。教育機器備品も充実し、情報化、医療の高度化に対応した設備がなされています。ひとつ屋根の下で、教職員と学生が上下の関係でなく横の関係でつながります。円形のフォルムは、医療に従事する人としての優しさ、思いやりをシンボライズしております。百聞は見に如かず。機会がありましたら是非見学にお出掛けください。

文責：学校法人 銀杏学園事務局 橋本 寛





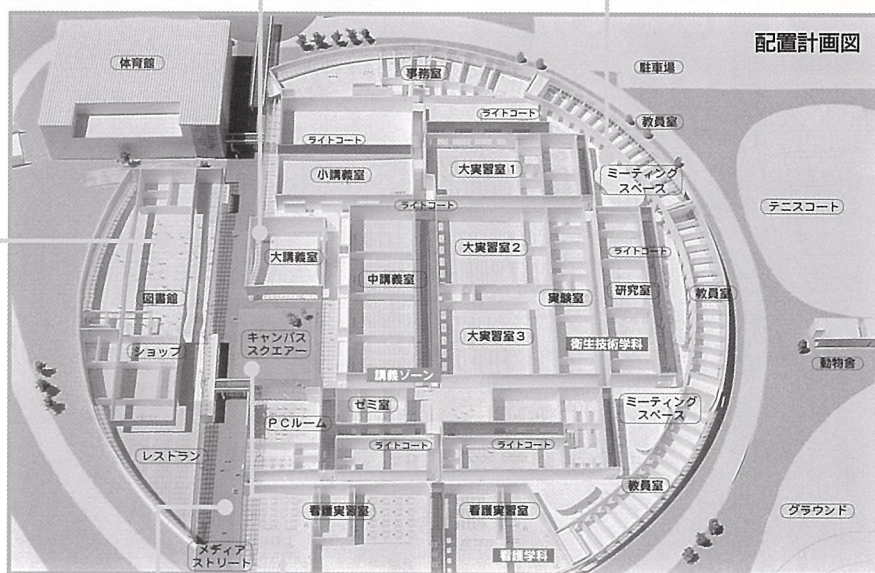
図書館



L1講義室



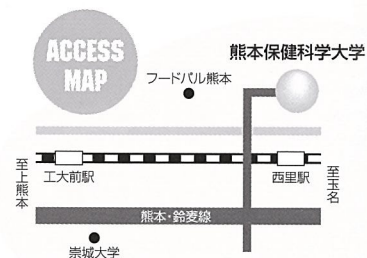
オープンミーティング



メディアストリート



キャンパススクエア



## DATA

## 【所在地】

熊本県熊本市和泉町字亀の甲325番地外78筆

## 【学部・学科・定員】(予定)

- 保健科学部 衛生技術科 定員100名
- 保健科学部 看護学科 定員 95名

【敷地構成】敷地面積/64.439m<sup>2</sup>

建物/校舎棟・図書レストラン棟・体育館他  
テニスコート/2面、グラウンド/250mトラック  
駐車場/300台、駐輪場/200台

## 【建物構成】(予定)

- 本校舎棟/1階建 鉄骨造 9.584m<sup>2</sup>
- 図書レストラン棟/1階建 鉄骨造 1.728m<sup>2</sup>
- 体育館/2階建 鉄骨造 1.149m<sup>2</sup>
- 動物舎/1階建 RC造

## 【交通手段】

- JR西里駅下車 徒歩5分
- 熊本市街地より車で10分

<http://www.kumamoto-hsu.ac.jp>



キャンパス全景

TOPIC1

熊本保健科学大学

賞を受賞しました!



から図書館をのぞむ



JR西里駅よりキャンパスをのぞむ



図書館



館から講義棟を望む

メディアストリートから  
図書館をのぞむ

エントランス

ISHIGAKI 12

No.366(10月号)より

施設紹介

阿蘇支所が  
新しく生まれ変わります!

第一弾 厩舎・堆肥舎完成

厩舎全景

阿蘇支所が新しく生まれ変わろうとしています。

千葉承継に伴う抗毒素関連事業の一環として、新しい施設の建設が進められています。

各建物は今以上に管理され「国立公園内に立地している立地条件を活かし、

その景観を損なわない、自然に溶け込んだ建物づくり」をコンセプトに

各建物の変貌を遂げています。



1 ISHIGAKI







2004

この年7月に第9代所長に船津前副所長が就任しました。新生阿蘇支所がスタートし、KR工場やLC棟、NR棟の建設へ向けて新たなスタートの年でした。



厩舎(馬の飼育)



阿蘇支所正門入口



修政

## 阿蘇支所増改築工事の竣工式 新生阿蘇支所！国民の負託に応えていくために

平成15年3月24日より進めてきた阿蘇支所増改築工事(国庫補助金事業工事、支所内整備工事)は、関係者の方々のご協力を得て、無事に11月28日完成・引渡しを終えました。ここに至るまでの皆様のご努力に、心から敬意を表させていただきます。そして、12月12日には阿蘇支所敷地内で、支所近隣の区長様、厚生労働省、熊本県をはじめ阿蘇町関係者の方々の参列をいただき、総勢88名のもとで竣工式の神事を無事執り行いました。当日は、みぞれ混じりで大変冷え込みましたが、参列の皆様から暖かい言葉をいただき心から感謝しております。

さて今回の工事は、設計コンセプトを「雄大な阿蘇の自然環境との調和」をテーマとし、厩舎を含めた建物が周辺環境に溶け込んだ牧歌的雰囲気と、医薬品製造工場として、シンプルで清潔感のある外観を心がけました。これにより阿蘇支所のイメージは大きく変貌し、新しく生まれ変わった印象があります。



◆阿蘇支所増改築工事の竣工式◆



懇親会



神事



常務理事・副所長  
船津昭信



理事長・所長  
内野裕自



常務理事  
田代 昭



厚生労働省 医薬食品局 血液対策課長  
金井雅利

- 工事概要
- 工事名：阿蘇支所増改築工事
- 工期：平成15年3月24日～平成15年11月28日  
8ヶ月間
- 工事対象
- 【国庫補助金事業工事】
- ① 既舎・堆肥舎(馬免疫施設・最大収容40頭)  
木造平屋建 延床面積924 m<sup>2</sup>
  - ② T棟(毒素製造棟)  
鉄骨平屋建 延床面積954・23 m<sup>2</sup>
  - ③ M棟(製造管理棟)  
鉄骨平屋建 延床面積954・23 m<sup>2</sup>
  - ④ 排水処理施設(支所内の排水処理)  
鉄筋コンクリート造 延床面積48・16 m<sup>2</sup>
  - ⑤ インフラ工事(GMPゾーンの電気・排水管理設)
  - 【支所内整備工事】
  - ⑥ C棟(SPF動物関連施設)鉄骨平屋建  
延床面積333・51 m<sup>2</sup>
  - ⑦ C6棟(SPF動物関連施設)  
鉄骨平屋建 延床面積62・40 m<sup>2</sup>
  - ⑧ 景観工事(外構工事・埋設工事等)

心機一転した環境の下で、阿蘇支所が従来からのSPFゾーンでの動物生産に加え、国有品ワクチン等の供給に寄与し、国民の負託に応えていくことを折つてやみません。

ぜひ近くにお出かけの折りには、どうぞ二度そ  
の変貌ぶりをご覧ください。

文責・資材課 続 雄二郎



## トップインタビュー

## 存在感のある企業でありたい

所長 内野 矜 自

所長が考える化血研の  
現状分析を聞かせてください。

まず業容・業績ともに素晴らしい成長を遂げてきて、企業としての社会的責任を果たしているようになつてきつあるかなと思います。

かつて、日本が文明国になろうとしていた時に、産業は何かを当時の企業人は考えた。この角に例えば石炭鉱山業があった。石炭鉱山業が日本の発展に大きく貢献したことは間違いありませんが、その陰で搾取に泣いた人が沢山いる。環境の変遷と云うことはあるにせよ、そういう企業は今全部姿を消している。しかし例外的に日立製作所がある。日

立鉱山はこの在り様はいかなるものと素早く転換の機会をとらえた。全部とは言いませんが、何かを犠牲にして創られた企業であつてもその時点では貢献したものであります。でも最終的にはちゃんとした企業体質が整つて来た企業に現存があります。だから化血研もこのことを心して未来の繁栄のため全職員が心を盡して頑張らねばならないと思います。喜ばしいことに化血研は世間にお役に立てる企業に成長して来ていると思っています。去年十月には日本経済団体連合会(日本経団連)の会員企業にもな



① ISHIGAKI

りました。化血研が世の中で存在意義のある企業になることが私の積年の夢です。「化血研は何をしている企業なのか?」という仕事をしています。と知らしめた。化血研は、閉鎖的な企業ではありませんから、物を作っている様子を見ただく見学コースも作つてあります。そうやって世の中の皆さんと仲良く交わらなければ、認知はされない。本当に認識されるには知ってもらわないといけない。人間は一人では生活できません。集団の中で物の思いを達成していかなければと思ひます。ただ、順調にきている今だからこそ何かあったら大変です。当企業は姿勢を

と、ところで化血研の本業とは何でしょう。有効で、安全性に富んだ高品質の製品を研究・開発して世の中に供給することです。勿論、副次的におこることも生懸命やるためにはこの組織は自分に何を求めているのだろうか?そして、何をしなければいけないか。それをしつと考えるのが、従業員の本質ではないでしょうか。そういう目的意識がハッキリしてくる。無理をせず、正直に考えられ

ISHIGAKI ②





## 理想の 化血研像は？

先に述べた通り、企業は世の中の役に立ち、存在感のある企業でないと存続できません。おこり高まることなく、きちんとした企業の風格を整えたい。公益法人というところが公益事業をしようと思ってしまうが、世の中で活躍している企業は公益性があるからだと認識すべきです。また、公益法人だから儲けられないということはありません。

## 従業員への エールは？

従業員には、自分の様を作る事を望みます。これなら人よりも自信が持てる、もしかしたら人より優れているかもしれない」というものをくり上げると、自分に自信が生まれるんです。そこで、その認識を持って周辺分野に手を伸ばす。「芸に秀でる」とはそういう事です。好きか嫌いかは、やってみなければ解らない。やつてみるうちに好きになつてくると本当じやない。1回や2回の失敗で挫けるくらいならやめた方がいい。大変な境遇に遭えば遭うほど強くなる。それに向かつて行こうとするナレッジ精神が出てくるんです。その時に何かを覚える。二つが、自分の身になつていくんです。そうすれば人前で何でも言えるようになる。提案が出来るようになる。しかも前向きなね。自分をよく見せようとする必要はありません。人間、能力はほぼ同じです。努力しているか、していないか。好きになろうか、という事です。それに、勉強が出来るから頭が良いので

ない。勿論勉強が出来るというのは頭の良い要素ではありません。しかし本心に頭が良いのは自分なりの処し方を知っている人なんです。

## 今回は、休日の 過ごされ方や趣味も お聞きしたいと 思っているのですが。

人に今何がしたいですか？と聞かれると「日同ほ」と答えます。少しの時間でいいからゆつくりしたい。休みが殆どありませんから。やはり何もしない時間を持てないと思えます。他に、晩酌している時。若い時は大変な酒飲みでね、化血研始めて以来、私が一番かもしません。ナイターを見ている間にボトル一本空けた事もあります。日本酒の1合瓶を22本飲んだことも。お酒を飲んでいるとだんだん楽しくなってくる。でも、年を取ってからはもう飲みませんが、同じ年代の人からすると「あんな怪物かい」となります(笑)。焼酎は晩酌に二升瓶が4日、4号瓶は2日もちます。水割お湯割とかでなく、そのままです。それが一番幸せ。それがストレス解消になつてくるのかもしれない。そんなに仕事をしなければいけないときでも晩酌はする。原稿を書く時は、だいたい晩酌の後です。そういう意味では、

趣味は、酒がもしない。それなら、動物は犬を飼つていました。何種類か、大きな犬ばかりで、犬小屋の為に家を転々とした。一番多いときで、成犬が4頭、子犬、中型犬合わせて17頭いました。一番苦労したのは、ゴルフですね。人様が誘いにきても、なかなか暇もなかったし、やつていませんでしたからね。

## 最後に一言。

要するに人間は、自然体でいれる事です。そのためには努力しないといけません。化血研の職員として誇りを持つてください。今、それだけの企業になりました。重ねて言っておきます。

全員：今日はありがとうございました。  
(座談会形式で西村知裕さん、矢野美穂子さん、宮柱澄香さんが所長にインタビュー致しました。)



9 ISHIGAKI



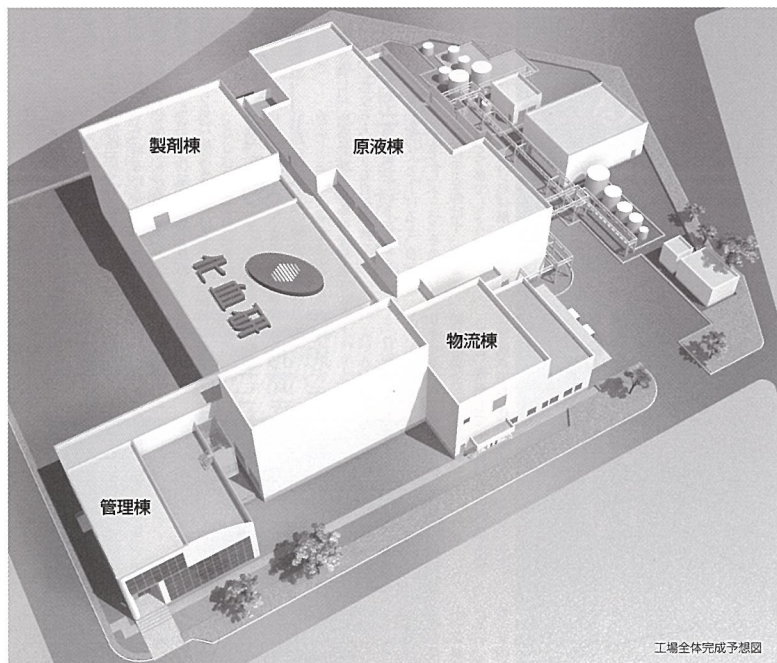


## 組換えアルブミン工場起工式

## 化血研の歴史の中で重大な節目となる施設

～高品質の医薬品を低コストで開発・供給を～

試作研究部製造技術課 宮津嘉信・伊津野照雄

及血清療法研究所  
工場建設工事

工場全体完成予想図

康福社部の尾方次長より「FDA対応のKRR工場において組換えアルブミンが製造されることは、安全で高品質な医薬品の国内自給に向けた大きな前進であり、組換えアルブミンが21世紀における新たな血液製剤になるよう期待しています」と祝辞を頂きます。

倍の投与量になります。従って、組換えアルブミンを事業化するには、組換え医薬品としては最高レベルの生産性と高純度の達成という、相反する課題の同時克服という究極の生産技術が要求されます。化血研では1999年にデルタ社より酵母を宿主と

「この施設は、化血研の歴史の中で重大な節目となる施設で、期待が膨らんでいます。化血研は世の中に存在感のある企業でありたいと願っており、高品質の医薬品を低コストで開発・供給のスタンスはこれからも変わることなく大切に、この機会に「層の努力をして行きたい」と挨拶がありました。

また、来賓を代表して、熊本県健

と無事成就を祈願しました。その後の直らいでは、内野所長から

式典には、化血研関係者並びに熊本県、旭志村、石川島播磨重工など50名余りの参加者のもと、地鎮の儀、玉串奉奠などが行われ、工事の安全と無事成就を祈願しました。

当日は、早朝に小雨がばらつき関係者をよきもよきせましたが、式典の開始前には雲つない清々しい青空となり、化血研のバイオ医薬製造拠点の実現に向けて、記念すべき第一歩を踏み出す一日となりました。

化血研では平成14年よりFDAのcGMPに対応したクリーン且つ高効率、コンパクトな21世紀型工場を設計コンセプトにした、組換えアルブミン工場（KRR工場）建設の諸準備を行って



No.374(6月号)より



No.377(9月号)より

レポート 1

# LC棟安全祈願祭

熊本では連日真夏日が続くなか、平成18年8月20日(金)、臨床検査棟前の敷地におきまして、加藤神社湯田権禰直・能井権禰直翁主の下、LC棟建設安全祈願祭が厳粛に執り行われました。

参加した約50名が見守るなか、船津所長・内倉副所長・理事各位・熊本県健康福祉部関係者・設計/施工者代表者などによる地鎮の儀、玉串奉奠などの神事が行われ、工事の無事を祈りました。

LC棟は鉄骨造、一階建て、延床面積約1,700㎡のD/A対応の無菌製薬施設として設計され、完成後は11月頃に製造されている症瘡ワクチンの製造が行われる予定です。また、米国向け大量生産に対応し、症瘡ワクチンの高度な無菌性への要求に答える、最新鋭の設備を整えた



的とした原液棟と物流棟を建設し、今後約10年をかけた工場を拡張していく計画で、三期までの総工費は100億円以上になります。最終的な生産能力は、12.5グラム入り製剤換算で年間100万本(アルブミン蛋白量として12.5トン)となり、組換え医薬品の工場としては国内最大級になる計画です。第二期工事の規模は鉄骨造り、地下1階地上3階建て延べ床面積約7,000㎡で、来年9月末の完成予定です。

ヒト血漿由来のアルブミン製剤は、出血性ショックや肝硬変、火傷の治療に広く使用されていますが、その投与量はグラム単位(数十グラム)です。化血研では1988年から組換えB型肝炎ワクチン「ビーメン」を製造していますが、この投与量がマイクログラム単位ですので、これに比べると百万

現在、日本ではアルブミン製剤を相当量輸入に頼っているのが実情で、厚生労働省としては輸入に頼らないアルブミンの自給体制の実現に向けての施策を展開しています。組換えアルブミンの上市が実現すれば国内自給体制の推進に貢献出来ることとなり、社会的貢献度の高い事業と言えます。組換えアルブミンの開発は今回の起工式で大きな節目を迎えましたが、これからが正念場です。組換えアルブミンの生産に向けて飽くなき挑戦を続けていきたいと思います。

最後に、6月初めから本格的な工事が始まり、菊池研究所の皆様には騒音や振動などのご迷惑をお掛けしていますが、ご理解とご協力の程を宜しくお願い致します。

以上

ISHIGAKI

ISHIGAKI



No.378(10月号)より

No.378(10月号)より

# 船津所長に聞く

## 世界で通用する研究所に。

所長としての抱負  
をお聞かせ下さい。

今後の時代は、世界に通用する打つて出られる製品が二つないと、次のもう一つの安定した段階は迎えられないということにきたと思っています。これは、化血研が日本でしっかり頑張つてやってゆけるかどうかの課題と同じ事だと思っています。我々は、この「生物学的製剤」の分野で頑張りたいと思っている。その意味では、今、活気づいたワクチン市場は期待しているところです。まず人用ワクチン分野について、過去、日本の技術は良いと言われてきましたが、現実としては、輸出はまだ十分でない状況。当所でもDPT、YHBなどありますが全体の比率からすれば少ないです。ワクチンの輸出入は認可を得られれば自由なのですが、日本

から世界に通用するのはなかなか少くない。海外からのワクチンも特徴がなければ同様です。現在、化血研はメルク社のMMR-IIを日本に導入しようとするまでに10年前より努力して参りました。やはりこれが非常に難しい。日本との審査の差異が絡んでいる為です。海外の大手ワクチンメーカーのメルク、グラクソスミスクライン、アベンティスバスター社などは、日本の市場に大きな関心をもつて参入努力中ですが、門は開いていないがなかなか難しい。その意味では、国内に使用されているワクチンは、ほとんど国内メーカーが主体です。しかし国際交流が盛んになり感染症も国際化してまわりました。日本にないワクチンもし

くは、海外のコンバインワクチンなど日本市場に向けての環境づくりが目の前に迫ってきています。動物用ワクチンは5〜6年前に基準がかなりグローバ



① ISHIGAKI

の中、製造体制はもとよりQA、QC体制をFDA、GMPに対応した組織にしなければなりません。この様に世界に通用するためには、FDA、WHO、GMPの基準に合致する設備、品質保証がなされる必要があります。ここで作られる輸出できる商品数を複数達成することが、ここ数年の我々の期待だしやり遂げたいと、皆さんの絶大な支援を受けてふんど笑。

新しいバイオテクノロジーを取り入れた製剤を幾つか出すこと。そのための設備と品質管理、それをこなせるだけの能力ある人間を育てること。それが僕の抱負だよね。

どのような研究所にしたいのか、それ

ISHIGAKI ②

化血研の基本なんです。その基本を大事にしなから、研究開発などチャレンジできる化血研にしたい。大変だけど、この研究開発ができないと、財団としての役割が果たせない。

昔の化血研は、皆研究開発をしようと思つていた。製造も開発も皆一緒という状況があった。ところがGMP、その他の要因から、やはり機能分担を明確にしようとして現在に至っています。ま

どのような研究所にしたいのか、それ







創立60周年を迎えるこの年は、ハード面、ソフト面ともに充実してまいりました。これからも財団法人 化学及血清療法研究所は70周年に向けて更なる邁進をして参ります。

# 2005

平成17年



## 自分が最後の砦だという 強い使命感を持って

平成十七年 新年拝賀式 所長 年頭の辞

平成十七年一月四日

本所厚生会館  
菊池研厚生会館



新年おめでとうございます。

年が変わって平成17年(2005年)、皆様におかれましてはいかがでしたでしょうか？

御家族そつて佳い春をお迎えになつたことと思っております。

さて、私は昨年7月に理事長・所長に就任しましたが、在任中に取り組むべき重要課題として思いますことは、

①現在進めている大型プロジェクトを確実に進捗させること。

②逆風にも耐えられるよう高度の専門技術力のある企業体質を強化すること。

③化血研の創業の理念に「使命感を持つ」次代の化血研を担う人材(幹部)が育つ環境をつくること。

などと思っております。

そのために目指す所として、若干抽象的になりますが、基本的なベースとしては、何のために化血研で働き、頑張るかという根底にある気持ちの「持ち方、考え方」とそれらに支えられた「実学的サイエンス」が重要と考えています。このことを踏まえて以下の3つを掲げたいと思います。

①チャレンジ、世界と戦える高い技術集団になろう。

国内シェア30%を確保しながら、将来的には、海外売上高比率10%(30億円)が目標です。

日本できちつとした仕事ができるためには、海外にも輸出できる製品をもてる能



力があると思っています。特にバイオなど最先端技術の研究・開発に努め、世界に通用する魅力あふれる製品・技術を提供していただけるように、選択と集中(経営資源「人・物・金」の最適配分)を常に見直し、考えましよう。

夢の実現に向けてビジョンを掲げ、失敗を恐れずに、勇気と創造力をもって挑戦してほしいと思います。

②プライドの持てる強い現場を作りあげよう。

一般に言う製造・営業の現場というだけではなく、それぞれの部署に現場があります。やるべき業務と責任があり、法的コンプライアンスを守りながら、諸々の仕事(業務)の品質向上を図ってゆかね



ばなりません。その過程で生ずる問題点を当事者として解決する意思を持った強い現場が必要と思っています。常にイノベーションを追求し、一生懸命知恵を絞り、改善に取り組んで下さい。

③多面的に見て、物事の本質を理解し、まず自分達が何をやるかを考え、Data-DoCheck-Actionを回そう。

できるだけ広い視野から優先順位を考え、計画すること。ここで負けたら倒れてもいいと思える位の強い気概、根気強さ、タフさをもって実行しよう。しかし疲れることがあります。逃げ出すのは困るが、休憩は必要なことと思っています。労使相互信頼を基本にして、コミニケーションに努め、個人の創造力とチームワークの強みを高める企業風土が大事です。組織団結力なく世界とは戦えません。

そして、化血研が持つ伝統的特質と思いますが、「謙虚さ」を忘れないで欲しいと思っています。

今年12月に創業60周年を迎えます。未達課題を確実にクリアできるよう日々の業務への取り組みを期待して本年度の全所重点必達課題を次の10項目としました。

## 〔平成17年度全所重点必達課題〕

1、大型開発テーマの計画通りの確実な進捗

特に組換えアルブミンはⅡ相終了の目処、組培日脳は申請し承認の目処、組培インフルとオステオポンチン抗体はⅠ相開始

2、既存品の改良・適応拡大、添加剤削減・削除、シリレンジ化、混合化等による差別化

特にボルヒール改良、ベニロン適応拡大、チメロフリー化、DPT/IPPV

3、世界に通用する製品作り〜FDD Aライセンズ取得

4、新工場のスムーズな立ち上げと稼働〜竣工予定：LC棟5月、KR工場9月、NR棟10月

5、山之内・藤沢合併への適切な対応、拡販・シェア向上による売上高300億円以上の達成

(痘瘡6・5億円含む)

6、更なる安全性・有効性の確保、品質管理・品質保証体制の強化

7、ERP効率活用、棚卸削減、原価管理強化、キャッシュフローと

成果配分の連携検討開始

8、目標管理運用の定着化と実処遇への展開、従業員のモチベーション向上策

9、関連法規(GLP、GCP、GMP、GVP等)・企業関連法令、倫理綱領の遵守、個人情報保護法への対応

10、改正薬事法と血液新法への適切な対応の継続

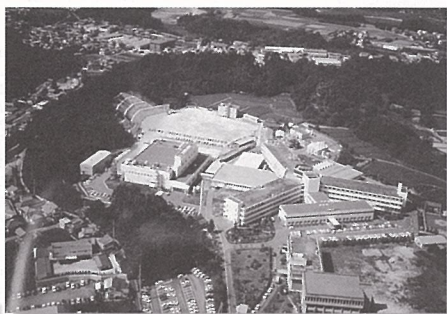
であります。各部各課にあつてはそれぞれの業務計画と共に、「自分が最後の砦だ」という強い使命感を持って、必達される様お願い致します。

現状にあつて化血研の業績は全体としてはほぼ順調に見えますが、それはインフルエンザワクチンと痘そうワクチンに限った話と言っても過言ではありません。企業環境は常に変わっていきます。この2つに過剰に頼らなくても業績をあげられるよう、考えに考えて行動し、元気に頑張っていきたいです。

ここに新年を迎え全職員が健康で充実した年でありますよう祈念し、それぞれの御家族の皆様へ「今年もどうぞよろしくお願い致します」を申し上げ、新年の御挨拶と致します。



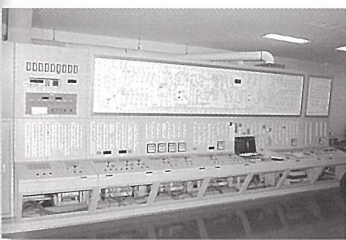
No.384 (4月号)より



①昭和58年頃の化血研(K棟も見える)



平成17年5月



①S棟Gプラントの制御盤(リレー回路が主流の時代)

製剤部部長付 高橋 一博

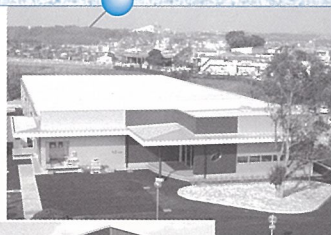


ISHIGAKI 6

## 私の自動化の思い出

## 航空写真を眺めて

建物の写真1は昭和58年頃の化血研の航空写真です。一方写真2は平成17年現在の航空写真です。この2枚の写真をながめていると、私が入所した昭



LC棟竣工式

2006年の  
生産開始を目指して

平成17年3月31日に、経費新製造機であるLC棟の竣工式が行われました。  
昨年8月20日に安全祈願祭を行いました。  
竣工まで約8月という短工期ながら、無事故無災害で、竣工の運びとなりました。  
LC棟は建築面積約1800㎡、平屋建、米國CGMP適合の経費ワクチンの新製造機として2006年の生産開始を目指しております。  
まだ書きは残っていますが、快晴の空の下で、来賓や工事関係者とともに、竣工の喜びを分かち合いました。  
工事中に不便をおかけいたしました皆様のご協力に感謝するとともに、今後のバリエーション立ち上げ業務などプロジェクトメンバー全員が邁進していく次第であります。  
文責 生産技術部長付 安本 篤史

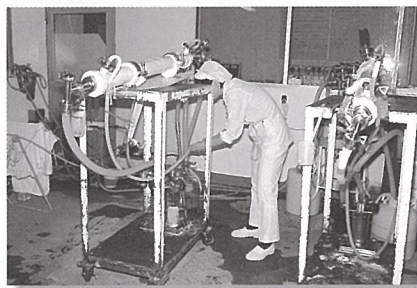
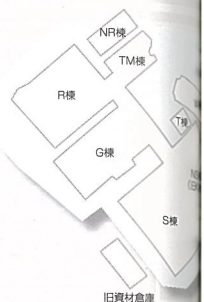


ISHIGAKI 6





①体操で始まっていた大運動会(右は動物舎(現存)、左はS棟)



⑦PAN(パン)と呼ばれていた濃縮用の脱外濾過



⑤本館屋上に施工中のパイプライン(初めてのSUS自動溶接)



⑧昔なつかし「乳缶」

④平成17年5月の化血研



昭和62年には写真1の旧K棟の包装室にて、それまで単体機械配置で作業を行っていた人体・動物・分画包装が3つにライン化(写真8)され、現在のR棟包装5ラインの原型が作られました。(R棟の充填・包装ラインではコスト削減のため新設のみでなく、K棟・T棟さらに菊池から移設も行われました。)

平成2年化血研初めての自動倉庫がS棟南側の旧資材倉庫を自動化する改造工事で実現しました。この最初の倉庫の自動化を皮切りに、その後平成2、3年の京町移転の際には、京町の動物製造設備の一部はG棟Kプラント(動物の培養タンク)に集約されました。また京町にあった「発送センター」が菊池に移転され、平成4年に「配送センター」が出荷可否のインターロックシステムで電算室のホストコンピュータと連動する形で建設され、さらに1999年のR棟建設では、GMP対応の自動資材倉庫がワンパツクリナタンボルの外装を除塵・消毒する装置の導入と共に実現しました。このとき同時に国家検定用自動倉庫(室温用と冷蔵用)が建設され、それまでの冷房内検定品関連作業はなくなり、検定品倉庫の施設管理となりました。またAGV(Automatic Guided Vehicle: 無人搬送車)も導入されました。その後NS棟建設、そしてNR棟建設へと進み、写

昭和62年には写真1の旧K棟の包装室にて、それまで単体機械配置で作業を行っていた人体・動物・分画包装が3つにライン化(写真8)され、現在のR棟包装5ラインの原型が作られました。(R棟の充填・包装ラインではコスト削減のため新設のみでなく、K棟・T棟さらに菊池から移設も行われました。)

の記憶をもとに写真1から写真2へ移行していった過程での思い出を綴ってみたいと思います。写真1の頃のいわゆる「プラント」はB棟血液製剤プラントをベースとして本格的な自動化が導入されたS棟のみでした。写真3は当時のS棟Gプラントの制御盤です。今や懐かしい思い出のひとつ

この間の変遷を技術的な観点から箇条書きしてみますと  
1 プラント化(クロロスドパイプラインの浸透サニタリー配管CIP、SIPの普及)  
2 ファーマンター技術の向上(最初のファーマンターは本館2階センターのLS1設備、次がBWの百ワフアイメンク)  
3、倉庫の自動化 AGV導入(ジャストインタイムからキャストインDayへ) 発想転換(内段取りの外段取り化)

### その間の技術的変貌

写真2の現在の航空写真へと移行してきました。



⑩旧K棟の包装ライン(昭和62年に初めてライン化されました)

のGMP遵守の時代からFDAを視野にした現在までのレイアウトの変遷が大きなインパクトを持つという実感と同時に、プラント設計・施工技術・自動化技術のレベル向上が25年の間に相当に進化したものだと感じます。



レポート  
インターンシップ2005  
夏開催

# 過去最多19名が挑戦



夏期休暇明けの化血研（八月下旬～九月中旬）二十名ほどの学生達が滞在していたことに気付かれたでしょうか？彼らは理工系大学の三年生（一部は院生）。インターンとして二週間から二週間の職業体験にチャレンジしていました。大学三年の夏休みといえば、バイトに精を出し、貯めたお金で旅行でもしたいところ。なのに、彼らは一生の仕事を選ぶ大事な機会として、大学を通じ様々な会社に申し込みを行い、マッチングの成立した企業にせつせと通ってきます。皆さんもスーパーや書店のレジで「実習生」のカードを胸に付けた、初々しい店員さんを目にす

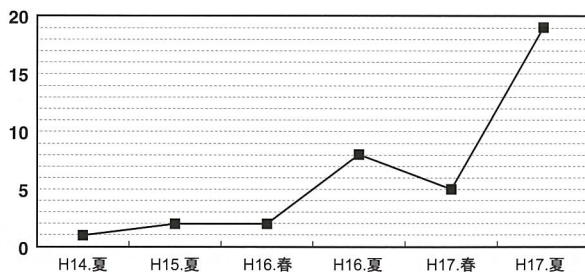
ることがあるでしょう。）

当所のプログラムは、実務を担当させるよりも、主として、簡単な模擬実験や品質試験等を体験させるもの。限られた時間、慣れない実験手技、当然失敗もあります。インストラクターは、つかず離れず適切な指導をして頂き、一定の成果につながるよう見守ります。

毎日の研修日誌や総括レポートをまとめるのも大変。大学での研究室配属前の彼らですから、「サイエンスの匂いが漂っている」という程度のものが多いのですが、中には二十枚程度の（まるで化血研所報「黎明」の論文を思わせる）ものもあります。

その学生によくよく聞いてみたら、実習終了後もインストラクターとメールでやり取りし、何度も添削を受けつつ完成させた、とのこと。「他の企業では、絶対に受けない経験。今後の研究室選び、卒論作成にも大きな影響を受けました。」あるインターンの達成感に満ちたコメントです。他にも、「医薬品という生命や健康に深くつながる仕事に関わることの重さ」、「正確さ、スピード、チームプレイ、理論と経験をフル活用したデータの読みの深さ。漠然と科学・技術の仕事につきたいと思っていましたが、「職業」として科

インターンシップ経験者の推移



「インターンシップ」は、「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う制度」背景には、若者の早期退社、フリーターやニートの増大がある。さらに近年、独立行政法人化した大学側が力を入れ始めた。企業以外に役所での受入もある。文部科学省の推奨もあり



学を追及することの深遠さに触れる日々でした。」など、本質を捉えたコメントが返ってきました。

このインターンシップは二十年以上前から、少数ながら実施されていましたが、ここ数年にわかに活発化。当所でも、毎年（春・夏）各二人ほどの受入人数だったものが、今夏二気に十九人という受入となり、まさに「想定範囲外」（右グラフ参照）。受入部門を探すことも困難を極め、最後の受入部門が決定したのは、TQC大会の日。



度入所内定者を含め、インターン経験者が、今後の新卒採用において大きなウエイトを占める事はほぼ間違いありません。

ここで、記事をご覧の皆さまの部署で、インターンシップ受入の余地がないか、ぜひ検討いただこうと思います。この夏は、ご経験のある部署に、本来の受入限度を超えた人数をお願いするなど、無理をして頂かざるを得ませんでした。



## 「職業としての科学」にふれた日々

インターンシップ開始の一週間前という綱渡りでした。

ちなみに、最後に引き受けて頂いた部署の若手インストラクター自身が、学生時代に当所インターン体験者だった。不思議な縁を感じました。

◆新たな受入部署を切実に希求

このエピソードからもわかるように、インターンシップは、優良な新卒人材獲得に貢献しています。次年でできるだけ適正人員で実施することで、学生・インストラク

ターの双方に高い満足度をもたらすはず。受入側としても、若手の指導力アップ・外部者が入ってくることの刺激等の効用が考えられます。既に、来春の応募が届き初めており、中には九州外の大学もあります。大学と連携の上、より良い学生の選定にも力を尽くしますので、研究・製造・信頼性保証の各部門においては、受入プログラムの開拓をご検討いただくよう、よろしくお願い致します。

（文責 人事課 坂口浩）

### 《参加学生内訳》

熊本大学・工(7名) 熊本大学・理(4名)  
熊本県立大・生活環境(2名)  
熊本保健科学大(3名)  
崇城大・工(2名) 九州工業大(1名)

### 《実習プログラム》

理化学試験等  
G機用水設備フローシート作成等  
各品質管理試験の見学、実習  
マウス脾臓細胞におけるサイトカイン産生の検出  
臨床開発の概要講義、統計学・演習等  
機器/リデーション、検体実習、充填・凍乾見学

### 《受入部署／受入人数》

品質管理部品質検査第1課(5名×1週) 生産技術部(4名×2週)  
品質管理部品質検査第3課(4名×1週)  
第一研究部第二研究室(2名×1週)  
医薬開発部(2名×1週)  
第三製造部第三課(1名×1週)  
蛋白製剤研究部第三課(1名×2週)  
蛋白製剤研究部第三課



## 新設備紹介

# この工場、この技術にさらに磨きをかけて 世の中のために貢献する

## 第1期KR工場の概要

橋梁・鉄骨造り 地上3階 地下1階  
 延床面積/約7000m<sup>2</sup>  
 本造面積/27m<sup>2</sup> 1階  
 橋梁用カラム/最大1600φ  
 生産能力/約30万本(12.5g製剤換算)  
 ※材料費約100万本(2.5g製剤換算)  
 (3階100万本/年)

～菊池研究所に第1期KR工場が竣工～



去る10月7日に第1期KR工場(組換えアルブミン工場)の竣工式が挙行されました。化血研関係者並びに熊本県、菊池市、ZLR、ヘリンタ、石川島播磨重工業、戸田建設など50名余りの参加者のもと、竣工式の神事を無事執り行いました。ここに、KR工場建設にご協力を頂いた関係者の皆様へ深く御礼を申し上げます。現在、2006年度からのPhIII治験薬製造開始に向けて工場立上げ、バリデーションを行なっております。今後とも皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。



## 船津所長の挨拶

「本日はお忙しい中、たくさんご参列いただきましてありがとうございます。血液からアルブミンは作られて

「本日ここに組換えアルブミンの工場の竣工式を迎えられ、貴財団におかれましては、第一歩を踏み出された事、心よりお喜び申し上げます。わが国における血液製剤の自給状況を見ますと、今尚、外国に依存しています。特にアルブミンに關しましてはその半分を海外からの輸入に依存しているという非常に厳しい状況です。このような中で本工場の竣工は国の方針であるアルブミン製剤の国内自給率アップに貢献するものです。また、本工場は製造管理、品質管理におきましても米国FDAのcGMP対応の最先端の工場であり、遺伝子組換え技術を使い、安全なアルブミン製剤を高効率・高生産で製造出来ると聞いています。本工場で製造されるアルブミン製剤は今後21世紀における血液製剤の新たな道を切り開くと大きな期待を寄せています。今後ともバイオテクノロジー技術につきましてさらにその研究開発を推進され、より安全性、有効性の高い医薬品を世に送りだしていただきたいと思ひます。最後になりましたが、貴財団の益々のご発展をお祈り致します。」

文責：試作研究部 宮津課長/伊津野



## 熊本県健康福祉部 檜山次長の祝辞

にさらに磨きをかけて世の中のためにキチッとやり遂げたいと思っている次第です。ありがとうございます。」



# 独創的生産ライン

## ～NR棟竣工～

11月15日(火)に関係者約60名が集まりNR棟(新製剤棟)の竣工式が執り行われました。



NR棟玄関

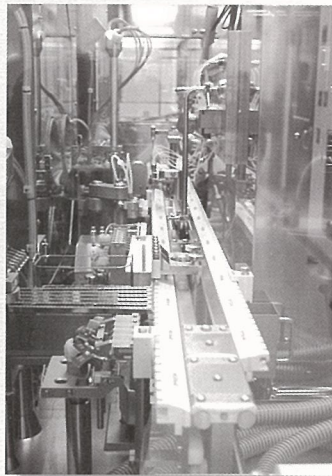


文責・製剤部製剤第二課 平井課長

竣工……2005年10月31日  
 建築面積……1,048.07㎡  
 延床面積……5,097.83㎡  
 高さ……32m  
 5階建(1F/更衣室及び倉庫、2F/充填設備、3F/バルク設備、4F/検査設備、5F/多目的スペース及び倉庫)

NR棟は、チメロサル等の抗菌性のある保存剤を含まないワクチンのプレフィルドシリンジの製剤棟です。最新の技術と設備で、安全性・有効性・利便性に優れたワクチンを供給します。

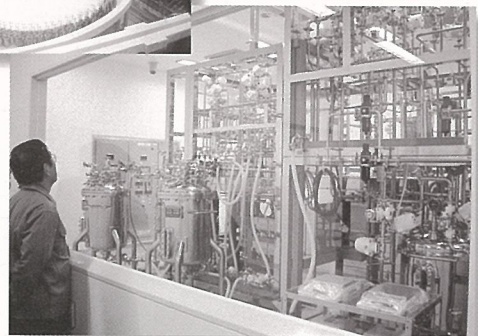
- 高速充填による生産量アップ
- クロースド化、アイソレーター導入による高度な無菌性の確保
- 独創的生産ライン
- 針付きシリンジによる接種時の利便性向上



アイソレーター内充填ライン



アイソレーター内  
ラインテーブル



3Fバルク調整設備



所内報

いしがきで綴る、この10年

The History of ISHIGAKI

●発行日／平成18年2月1日●

●発行／化学及血清療法研究所●

〒860-8568 熊本市大窪一丁目6番1号 TEL: (096) 344-1211 FAX: (096) 345-1345



